

尾張名所圖會 前編

七

ル 4
4597
7



144
4597
7

早稲田 大学 図書館
昭和 35. 1 28 號
藏 書

尾張名所圖會卷之七

目錄 海東郡 海西郡

海東郡解	法界門橋	萱津里	萱津古驛
阿波手森	藪香物	阿波手社	阿波手浦
及魂香塚	及魂香と焼園	権薬師	正法寺
妙勝寺	光明寺	大銀杏	實成寺
萱津古戰場	甚目寺	同初觀音泰	上条瓜
土田八幡宮	大吉寺	東勝寺	延命寺
義教公富士御覽の園		方領大根	石作村
石作神社	中社天神	中森	新屋村
新屋天神	法性寺	小町塚	新居家川
高宮社	福嶋正則宅址	菊仙院	花正村
法藏寺	藤木田	木田重長宅址	貴船社

三位法印宅址

蓮華寺

蜂須賀正利宅址

勝幡城址

根高地藏

根高松園

万場渡

万場驛

公屋孝女の碑

砂子川

自性院

馬嶋明眼院

同後園林泉の園

圓長寺

藤嶋神社

廣濟寺

伊福部天神

河葉天神

面足尊社

義經弓掛松

神守驛

憶感神社

日光川

諸鍛神社

諸桑村古船堀園

日置村

若宮八幡

光明院

甘樂名神

由乃伎神社

佐屋驛

相江天神

水鷄塚

佐屋川

戸田米

佐久間城址

西光寺

蠮江川

須成天王

龍照院

源氏嶋

善太川

圓成寺

大井神社

津嶋里

津嶋渡

佐屋津嶋追分の園

春縣神事の園

七ノ一



馬

四ヶ寺

六月船祭の園

天王橋跡

神領

奴野城址

神主氷室氏

本下藤吉天王泰詣園

妙延寺

四家七黨

瑞泉寺

西福寺

興善寺

土御前社

貞壽寺

教信坊

本蓮寺

八叙社

蓮臺寺

常樂寺

市神社

成信坊

名産白雪粗

名産麩

姥ヶ森

名産あぶ店

大龍寺

十二城址

海西郡解

馬津古驛

宇太志神社

石塚

西音寺

圓通寺

百合根

横井時水の傳

光耀寺

給父渡

早尾渡

葛城古渡

関通上人傳

一心寺

小杜天神

連理菊

蓮根

石田里

子消里

市腋嶋

古川城址

赤星名神

大楠

筏川

弥勒寺

宮筠圃の傳

筏川岸桃林の園

孝女とよの傳

忠女とよの傳

森津藤架

孝女とよの傳

海東郡

當郡ハ愛智郡ハ西に隣り北に中嶋郡と境と西に海
西郡小接し南に海濱と海部郡とついで頼
朝天下と治りついで二郡に東と西の方ハ則
海東郡西の方ハ今ハ海西郡と六國史と云々古書
にも少ハ海部郡と記せり

法界門橋

上萱津村の北に五系川小祭と云々橋あり

じり甚目寺大伽藍あり

時東の巻のみにあり法界門と云ひしが頼廢して存

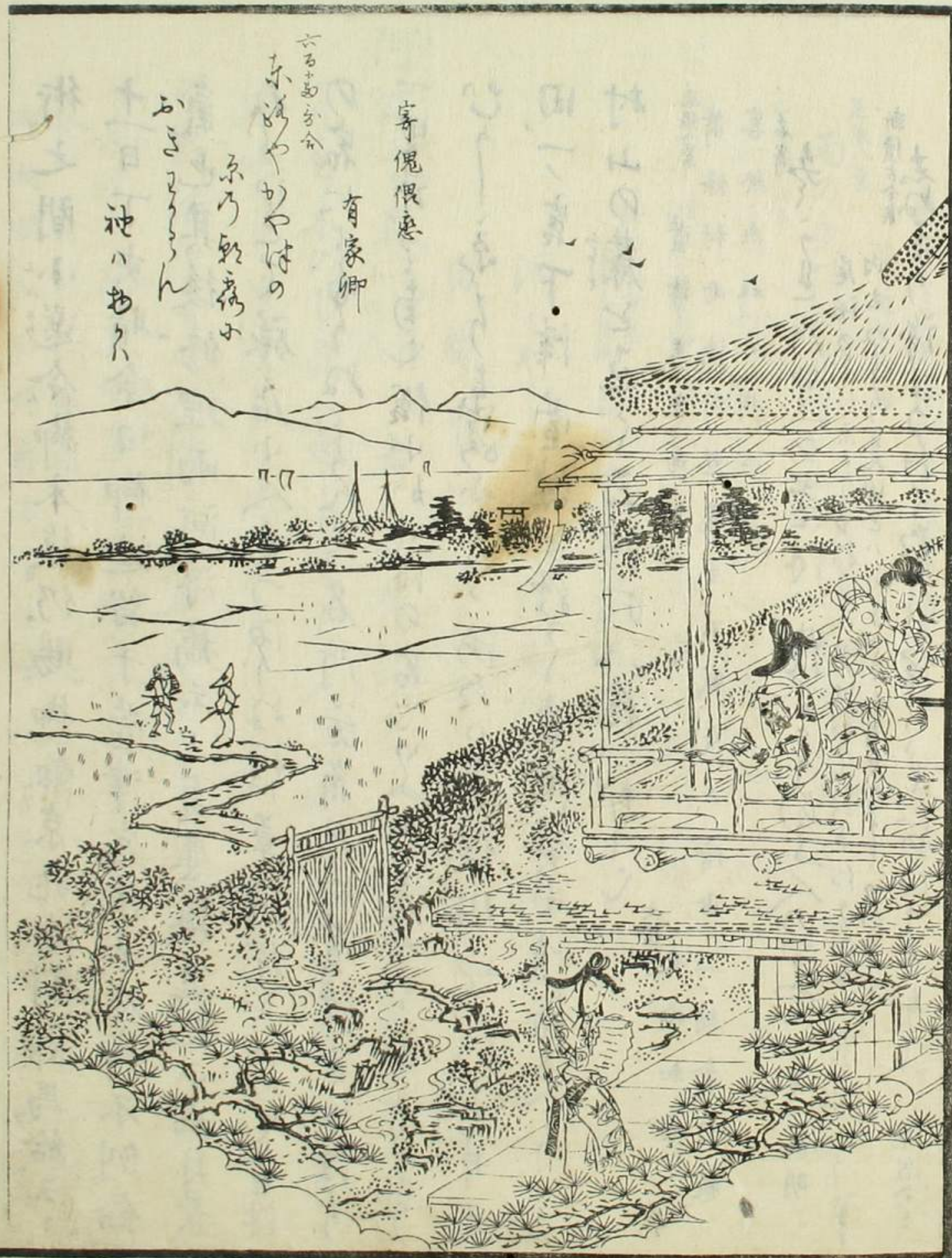
其名のくは橋小強と云々

萱津里

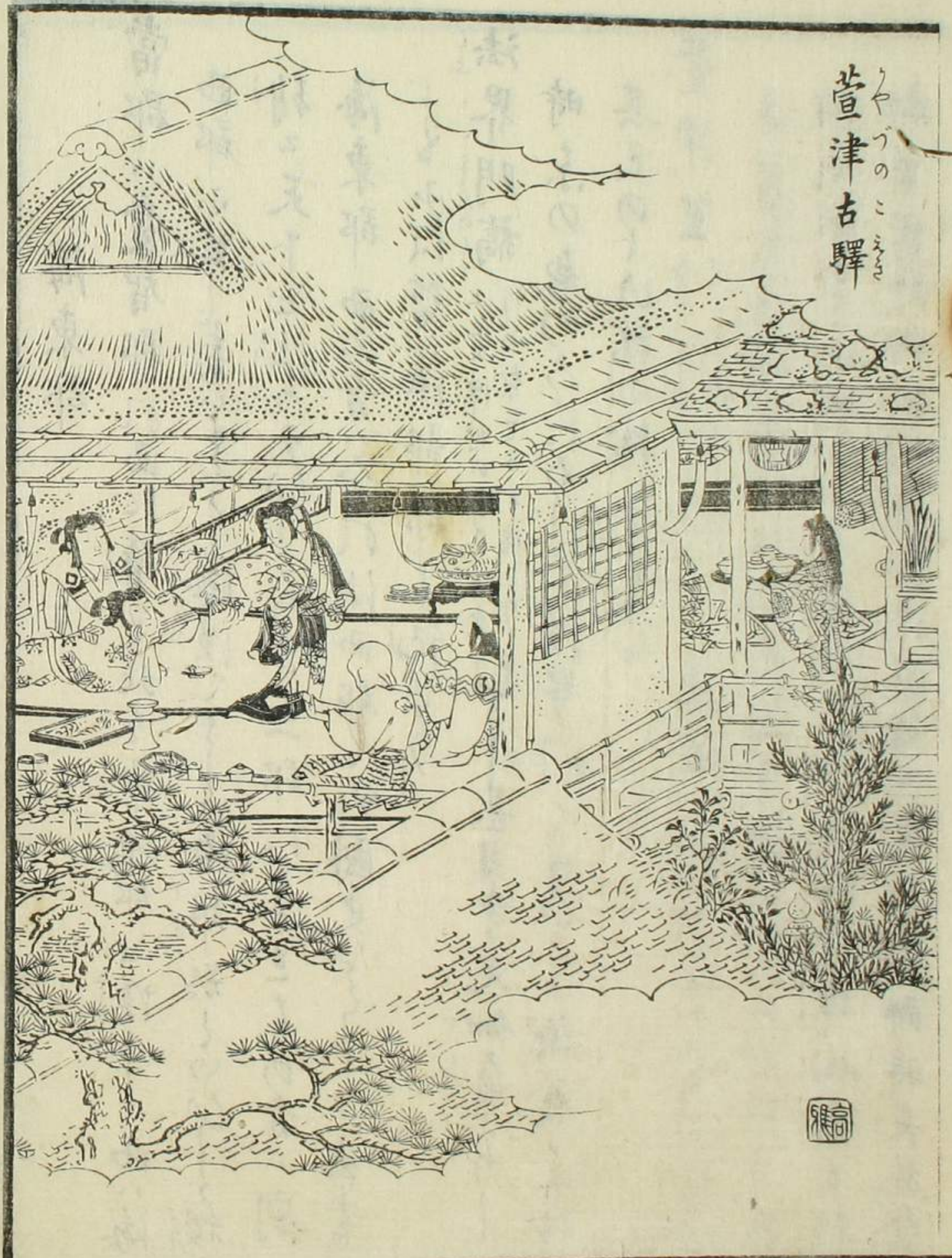
今上中下三郷ありて萱津頗るひろし

東鑑に建久六年六月廿九日壬

午著尾張國萱津宿給當國守護人野三刑部丞成
綱進雜事嘉禎四年二月十日丙戌晴萱津御宿亥刻
將軍家俄御不例御霍乱致諸人驚駭醫師時長施醫



寄唄假恋
 有家卿
 六右衛門
 東流やわやけの
 糸乃敷き小
 おん
 神ハ抄久



萱津古驛
 七ノ三



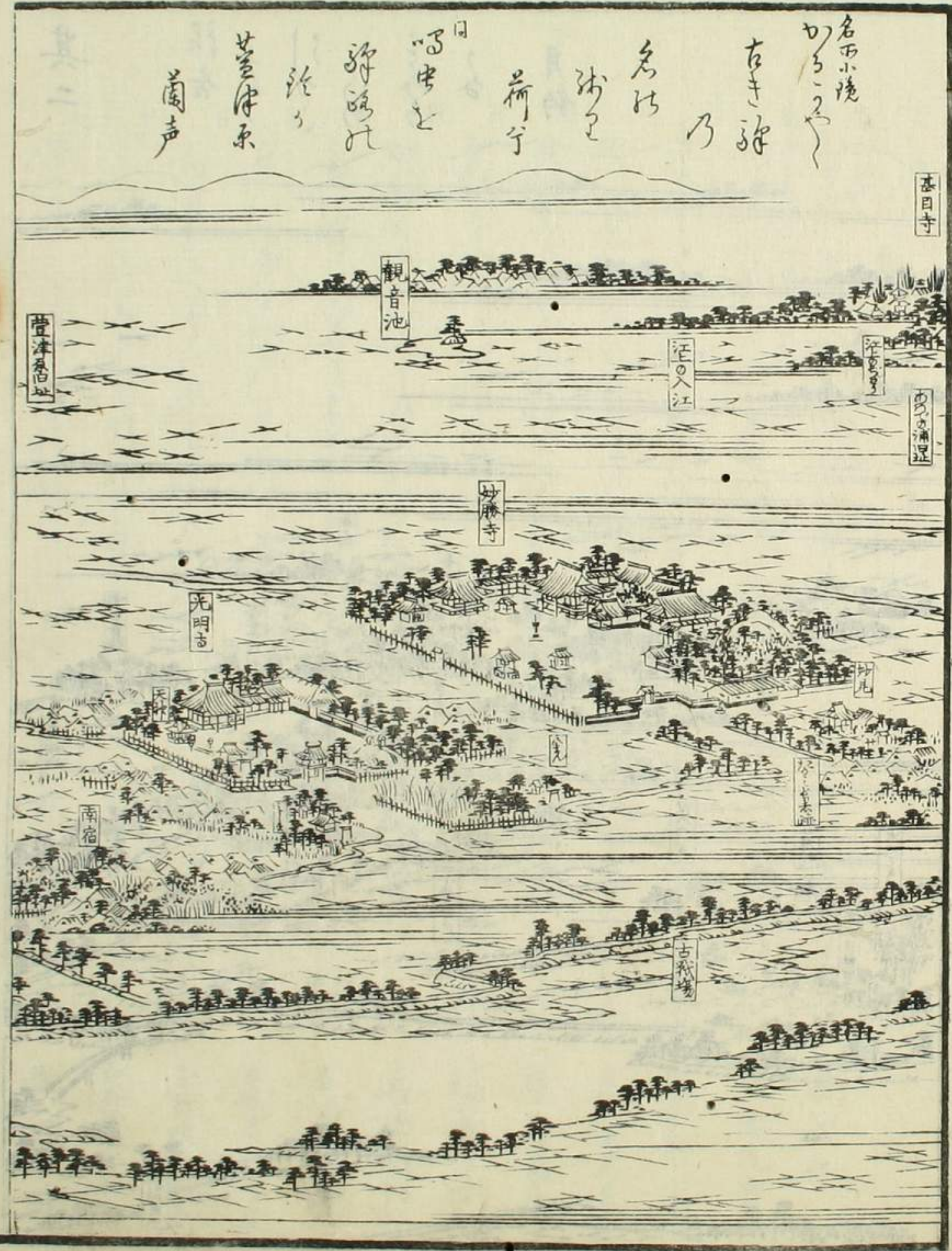
術之間小選令御本復仍賜御劔京兆令引御馬給云々
十日丁亥晴今日御逗留于萱津宿依去夜御不例餘
氣也其後修理兩河浮橋云々貞應海道記小幽月景
わつとして旅店小人志づゆりぬれ草れ枕として萱津
の宿にもゆりぬらん名所方角抄小萱津京下津り
一里計る南に信小か津の宿とゆふらん古津より
びりよりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
田一宮下津萱津とゆふ古津焚田鳴海走り二
村山の麓とこく三河の八橋へかこ

萱津里夜雨
菅條村雨滴新愁連屋不眠夜正脩世上繡衾香帳
客終無桂玉掛心頭
名寄
冬うらやまの萱津は煙よりあふ人のつまらぬ長明
尾張のまにまにあふりあふりあふりあふりあふりあふり
内志ぬよりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
新古今集
志ぬよりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
愧恨わこ

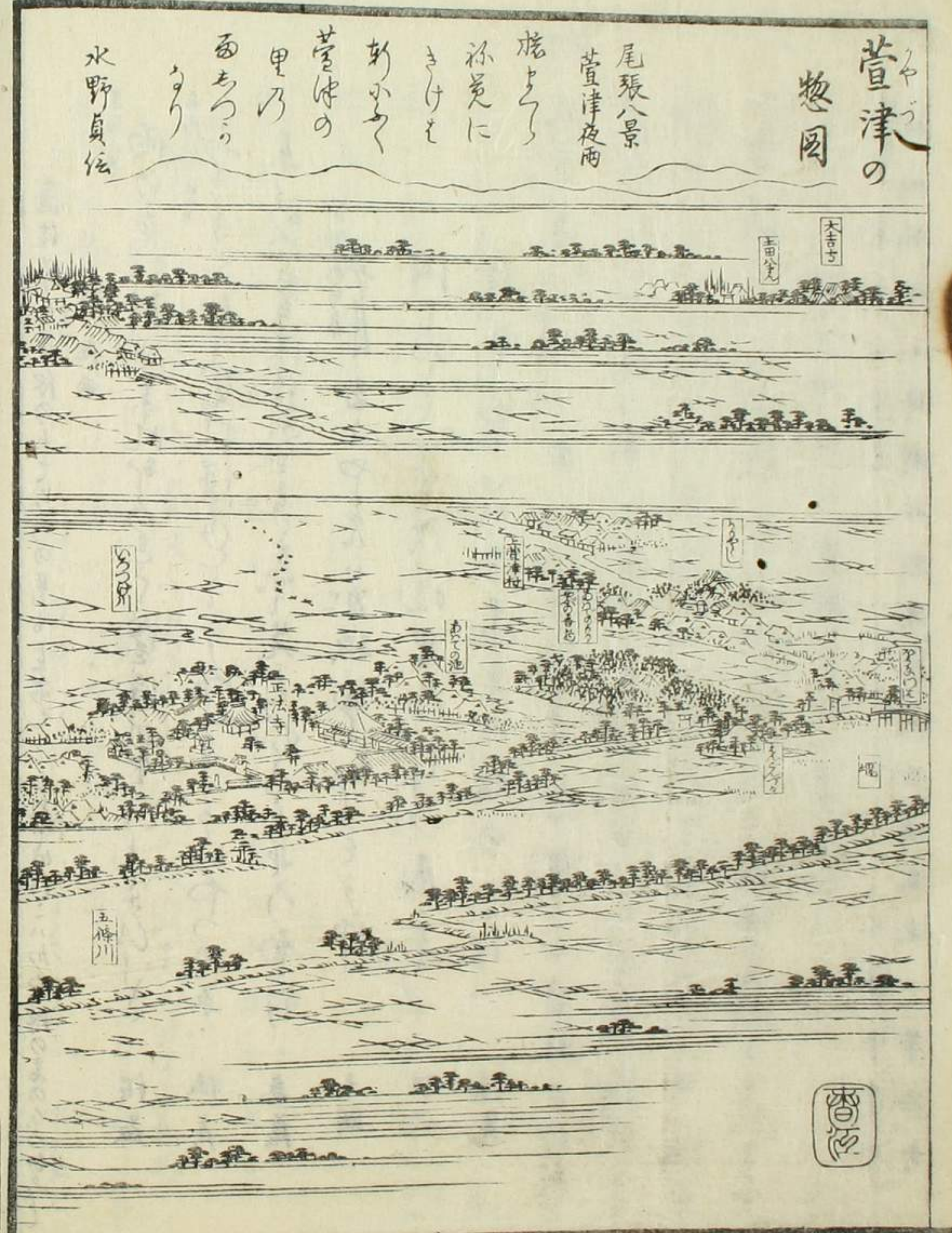
尾張八景
萱津夜雨
雨の夜れおのるれおのるれおのるれおのるれおのるれ
名所今秋集
あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
日
東海や萱津の系とくるあふりあふりあふりあふり
批把園白集
お月あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
洞やあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
白雲やあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
阿波手森
古人の秀詠多く蒼蒼する古林日の新と
尾張八景
栗手杜晴嵐
楓樹
紅如錦
緋海潮港碧似瑠璃翠嵐
大徳寺
覺印
一帶添奇

尾張八景
栗手杜晴嵐
楓樹
紅如錦
緋海潮港碧似瑠璃翠嵐
大徳寺
覺印
一帶添奇

名雨境
 乃古き跡
 名水
 沙
 荷子
 町中
 跡跡
 跡跡
 園声



菅津の
 惣図
 尾張八景
 菅津夜雨
 橋より
 杯菟に
 きけと
 新小舟
 菅津の
 甲乃
 西ちつ
 あり
 水野貞伝



香日寺



其二

沼杏
より
引つ
の
ま
ま
月釣



景栗手林齋樂者誰

新千載

かきたてて人も情のなまきり

我があはれをわすれぬまはれ人をまてぬあはれ

かこ糸れあこの玉は結よりしつゝあこの社のまきまねわ

日敷をわその社の下おまきまねわあれまよまよ

あまのこもつはまの社のつらもまよなりあまのこ

あまのこもつはまの社のつらもまよなりあまのこ

あまのこもつはまの社のつらもまよなりあまのこ

あまのこもつはまの社のつらもまよなりあまのこ

あまのこもつはまの社のつらもまよなりあまのこ

あまのこもつはまの社のつらもまよなりあまのこ

あまのこもつはまの社のつらもまよなりあまのこ

あまのこもつはまの社のつらもまよなりあまのこ

あまのこもつはまの社のつらもまよなりあまのこ

あまのこもつはまの社のつらもまよなりあまのこ

紫式部

順徳院御製

後三行意

後三行意

後三行意

後三行意

後三行意

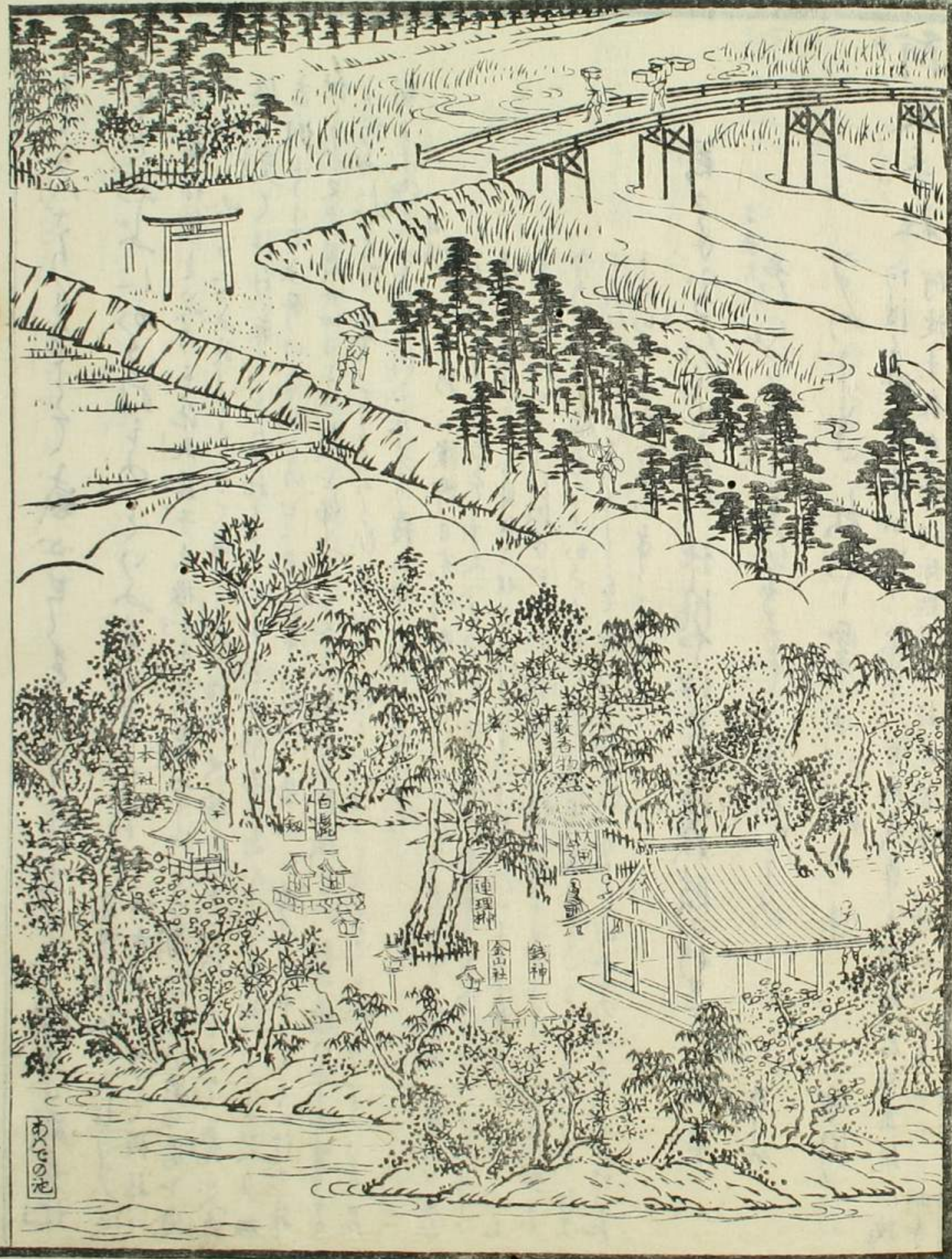
後三行意

後三行意

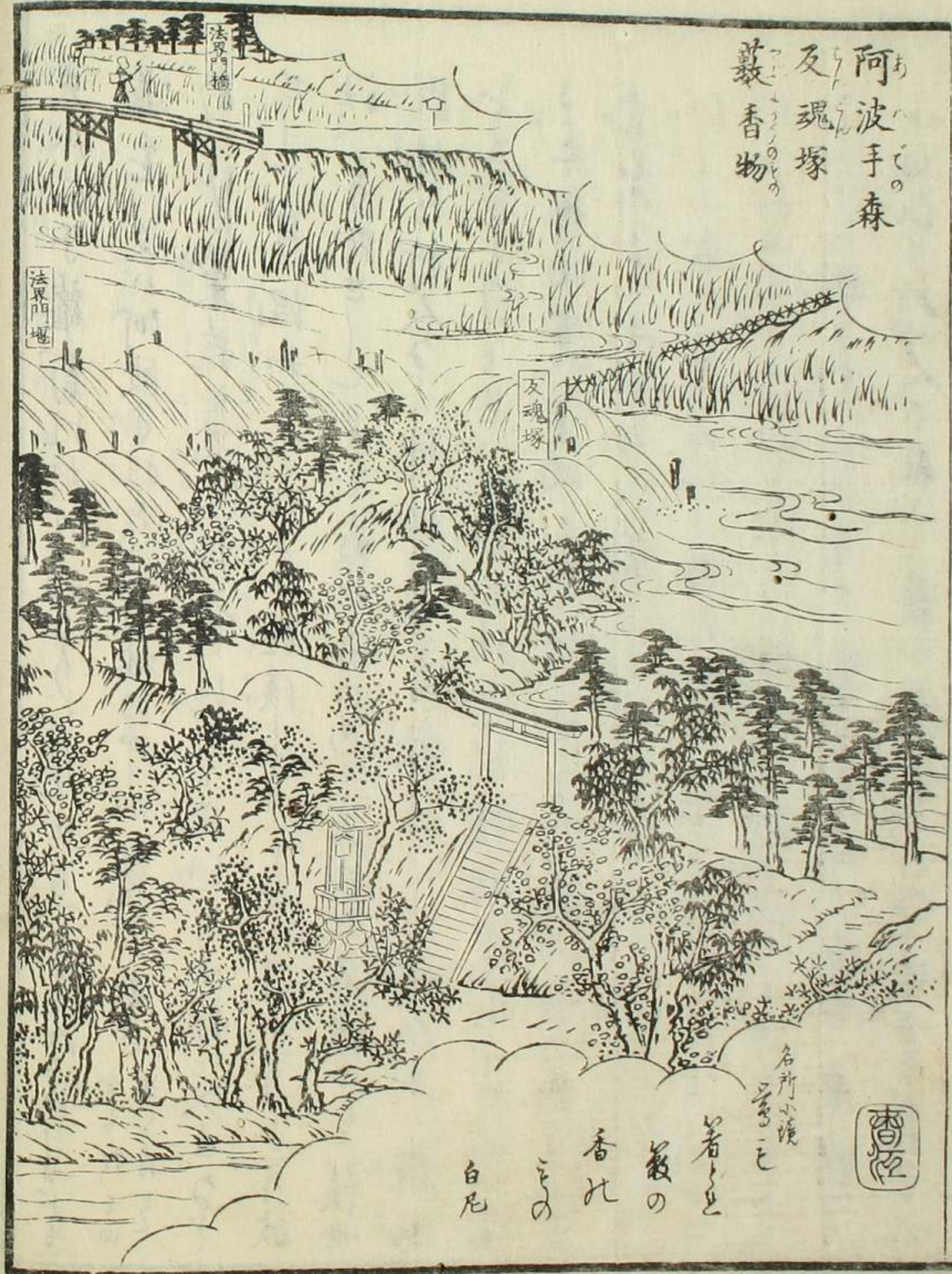
後三行意

後三行意

後三行意



あいの池



阿波手森
及魂塚
叢香物

法界地

及魂塚

名所小鏡
三巻之

香煙

白尾
の
香
の
叢

とらひざりたるもて感心せしき一に志すし源平盛衰記
少とやふにかうれそのとらふ事又んたり
東叢祿抄と云り尾陽子根角豆蓼やれとの南へ人ひ表の希と通
りけり必一ツ六神小まけて通りたると傳抄只捨重き小けりてとて
後と交てはけりしり初とてや大方日本香のおれとてり
吉例とては祈の香れとの二月初午の日に 奥田小其の三十二とさげて
供と又土月廿四日も 先と傳ふとをきけり阿波手社の教の中小育り
つらねるの事りてとらひ果ゆを標しりきとのを九返とてけり
制して今も阿波手社の教の中に儀とあり

信景
あつひふいふもみし神風や伊波漢新波小朽そ

香れとの
席竹

雄岡

阿波手社

阿波手社表の中小りり 日本武尊本國神名帳集説に按
阿波手森有神祠熱田神疑是萱津天神社而以香物故光明寺

境内亦祭之
之秋云々

末社 八坂大明神 白鬚大明神 連理神 社前に
金山彦尊 銭神小れ 救祠り

賀茂季鷹

阿波手の里

阿波手の里 尾陽子根角豆蓼
阿波手の里 尾陽子根角豆蓼

阿波手浦

阿波手浦 藤原家に尾陽子根角豆蓼ありは浦むりハ入海して阿波手社表のありす
夕き入海士の伝家もありハ中世傳りき妙田と傳り海を隔

源雅光

法平静賢

後鳥羽院御

平親清女

為道朝臣女

荒木田秀宗

いふせん阿波手社にたはりのよる人となんるまも

續後拾遺

いづれにわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん 達智門院

いづれにわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん 前大納言の世

いづれにわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん 寂縁法師

いづれにわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん 琳仁法師

いづれにわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん 基行

いづれにわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん 前大納言の基良

いづれにわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん 宗良親王

いづれにわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん 持病の文真

いづれにわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん 為尹

いづれにわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん 後永基志親

いづれにわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん 伴蒿蹊

いづれにわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん 破見

いづれにわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん

いづれにわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん 僧日潤

反魂香塚

反魂香塚の東

光仁天皇の天應元年河内将紀是

廣子七歳して父と母の東にわたりてはるぬおひのらん

失くすと父を廣出舟より登るとしてわたりてはるぬおひのらん

きく智光上人と頼りて反魂香とたきまけり此冥會と遂に跡

塚より今も跡ありて委しく名古を七ヶ寺に傳ふ

とわたりてはるかにや後ろくありたはるぬおひのらん 尚寺(同)祖東

名和尚は浦に弟菴と傳びて有り 光仁天皇の寶龜

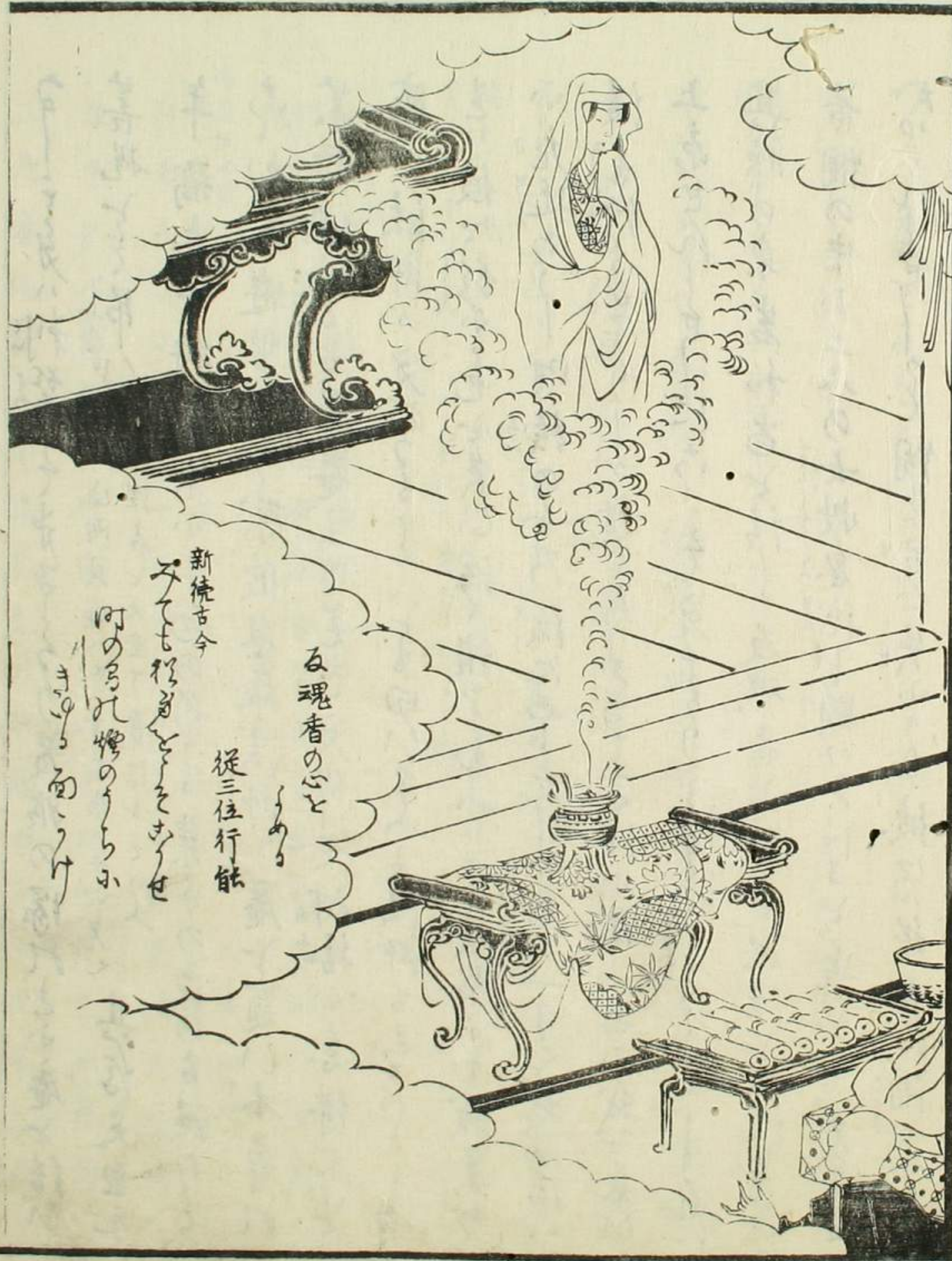
十一年奥州信夫の里より恙き夫婦 夫と恩雄妻と 上京

せんとして来て来たる小友は病小なりて遂に身なりぬ

病中小一首れ和をよみて恩雄小跡日り 志す

我身きえんは後の世はくき志すに誰とたのまん 恩雄

とてとんく 恩雄のあり東名わると清く常み成



新統古今
 びんごもねとさきあせ
 何のさし物のもらふ
 きよら 面こうけ
 互魂香の心と
 従三位行能



互魂香の圖
いんげん

稿

涙祠畔猶餘連理枝

堅集

粟の穂小くもとくも鳴虫もこれ

琴宇

唐燈の多や粟の夜のつゆ

松尾

秋もくやもやうりもれ声

天老

權藥師

上菅津村ふりて 本尊 某師め来 聖徳太子の沖作 藤姫位

牌一基

大空了覚信女位 小室龜十一年八月十四日

飯茶抄

作れ糸のりつゝ是るきわす

白因

秋の多むりろ四五枚たふり

少女

粟れ戸のぬきよき夕

岱青

日東山正法寺

田村のりり曹洞宗 本尊 正観寺 本像 寺室 藤姫位

阿波手森謠本

古写本 縁起云 古寺の天平勝室年中

唐僧東岩和尚の肇創の師と云 元和元年今此宗

旨に改め法持寺の八世月峯慶吞和尚の中興の年也

すま

古陵古漢のりりて 国君より香のりり

毎年尚もりり

契田宮(香物御供米ふと奉新也)

二月初年 一黒米三斗 或外五合

一葉苞 一組法極巻 一柳箸 十二本 但寸法三尺 一竹棒 三本 但寸法三尺 極月廿三日

長生山妙勝寺

田村のりり日蓮宗 田基の日蓮上人の弟子日妙

して尾張四ヶ寺の一福高(大丈正則寺及び境地と

多府あり) 坂東の熱本寺なり ○本尊 法華 寺室 日蓮上

人木像 其弁救多われが畧しぬ

横笛山光明寺

中菅津村のりり時宗相模 弘安年中一遍上人の田基

して上人巡國行脚の時當ふ(来らと必當ふ逗留あり)

諸人結縁れり六十万入決定往生の六字名号と授けらる

旧例との時 國君より厚くして三國傳記小永

和年中尾張と菅津の道場の流流洛陽七條をふ用のり

わりと上活とくも梅華無尽藏中尾陽菅津の道場

とんをいともにあされりて昔ハ七十二の僧寮及びも氏お
軍れ奉附ありし寺領も多々紫雲の古梵刹ありし秀吉
公の時没取せし且寛永十二年悦夫の存廢類小及り小
瀬南菴ヲ太閤記小云 後陽成院の御宇にあつて太政大臣
豊臣の秀吉公より人あり微少なり起り古今に秀てまひ
とに離倫絶於の大哉より 中畧八歳の此因國光明されし
とらしに沙門の作法小沐く世百のとり沙汰小を智世小
猶とらるるべき勇道のお徳よまきまひつて出家に乞われ徒と
らるるごとのとておぼし百萬我意に振まひ僧ども小いられ
らやの心より一六葉のどくやくは兒の氣分ハ申く沙門の
うらむして却て佛法のさるるをうす下りと庇義一變一父の
方と送りたる云々陸虎小云萱津の里の光明もハ若密宗の俗
徒なりと此一遍上人回國の次ハ甚目寺とて六時礼讃と修

せしむり小光明され院をいし孫傳にあり念佛の法回らん
どるのけの修よ上人小ゆして時宗より梵阿法院佛と
号す即一遍上人と中興の祖と仰ぎる今に於て三十四
せりのハ三傳の林の祠に傳ふもの古き板木あり豊后
秀吉公おなりの所ある小入て手習ひのいりまはるる時
をうれ板木の下小村奉て甚戲のいり杜年やむりて於
昔れおともしとび自ら木下と名のとらるる一も僧の
口碑小傳へ傳りし又天文の初光明も派下小福阿孫とら
僧あり眼疾と療らるるゆり 後素良院にて御疾成
當せりやむひらる御疾くうせむひらる時とたれける小後
ありらる官女とむひらる擧げて小少海り墨信して老知郡中
村小居と移し活助と稱せりとらるに彼宿女の生る子即秀吉
公也小光明とらる手習とらるりて云々○本尊 阿彌陀
如来

下萱津
大銀杏

俗に四枚派者といふ
一過上人の遺
行脚の付掛あり
杖とい地には
ありしと云ふ根と
生して今も大木
ありしと云ふ人の口
碑と云ふ



か
世乃人れ
玉好

寺寶 青磁大花瓶一對

鎮守天満宮社
縁起云
梅天神の住古真日井取飯田村松林の内にありしは
氏人更夢とあり正和二年當り境内へ遷りしに
焼失せし時當り焼色に思ひ天祥と云ふ神歌の松樹ありし
當り
五輪二基 一基は永享八年十二月十日千代地院にあり
一基は同九年五月十二日久保地院にあり

久長山實成寺

日蓮上人の弟子日妙の開基にて
久長山實成寺
同村あり日蓮宗
ある本あり

あふ四ヶ寺の一に明應年中織田大和守敏定再興して後福徳
正則と云ふと寄附ありしなり今も依然あり○寺宝 日蓮上人真
筆の大曼陀羅 幅一 日親上人の大曼陀羅 幅一 唐画十六羅漢 幅一

塔頭

圓行房 龍泉院
正善坊

萱津古戰場

同村あり岩倉の城に織田長五郎信友主君武衛義統と戦
信友の城と奪ひ取り移住せしに信友は彦五郎と謀殺せんと軍

兵と傳へ先づ清波の民を放火せしめて天文七年八月十六日郡古野と遊發せし
播磨地川の邑を焚きておどひし清波よりも萱津村を焚きておどけし申刻
まじく双方互ひに入り乱れ火死せしむる戦ひは後田孫太郎信光の百姓赤松
傳六郎先づめて討死せしむるに下方た中條小一郎采田傳六一陣の赤松
須方の坂井基助と討死せしむる坂井表太郎黒部源助也村と一交赤松孫七郎
と金源助も傳六の勇士五十余誘ひ討れ或は初めより清須野大に敗れ
久保長公傳六のちからとせしむる古戦場也

鳳凰山甚目寺

甚目寺村あり古く云々
府下大須志福寺末

寺傳云ある古き甚目寺
の創建して新嘗常に漁獵と業とせし一日網を獲り海濱

小むんし傍り入江小網とわららにたらまら網の裏におり
るく是れが力と網とわらら小宗令伝の一種とゆらう
見よに聖観音の靈像とせし且怪しき且怪しき合掌祀也
之西に己が罪却と後悔し亦業と捨く道心と獲り江の側小
一字と造立し彼も像と安坐し吉貴四年丁巳推古天皇其
の六年
此氏と云ふも人々を往昔稱す出世の時南天竺毘舍離
國の月蓋長者れ息女如是女五種の悪病とれらる時稱す

より流陀親善誓玉の三尊仏と授与し玉ひく彼却病と救せ

すい靈像ありしと存我日本小傳來流陀の靈像は流

必善光と小女年一親善の像は即南は日本もよとせしと云

時天智天皇時不豫小しと云るが帝ありし詔書靈

あらしと云るものと云るは此の詔書ありしに神怒忽ら神平念

けしせらと云る勅使左小舟兼盛と云八葉に室流今にも
傳す

佛殿小懸ひ勅教と云るひひぬ白鳳八年巳卯又

勅宣わりし堂舎と建立し鳳凰山に勅額と下賜仁

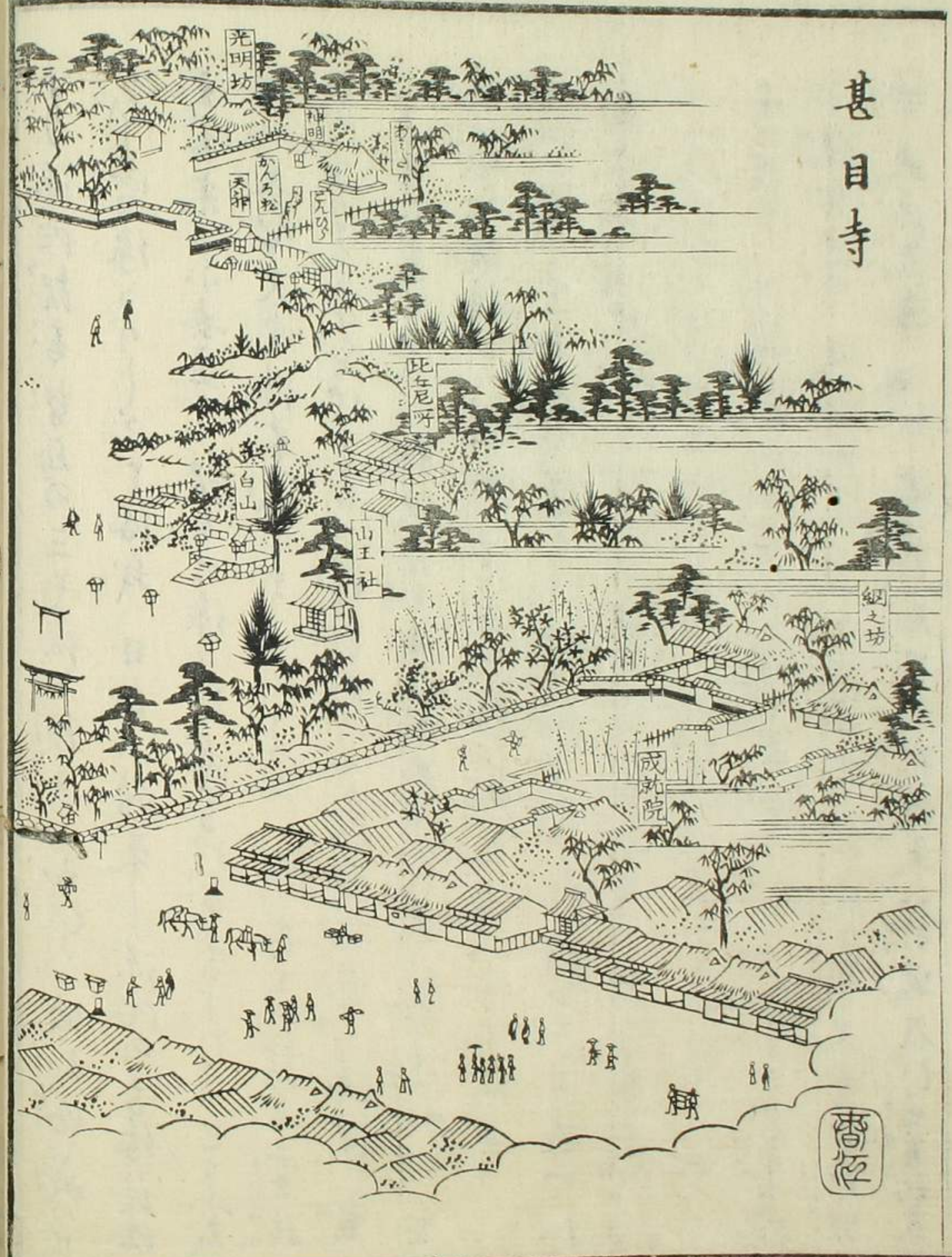
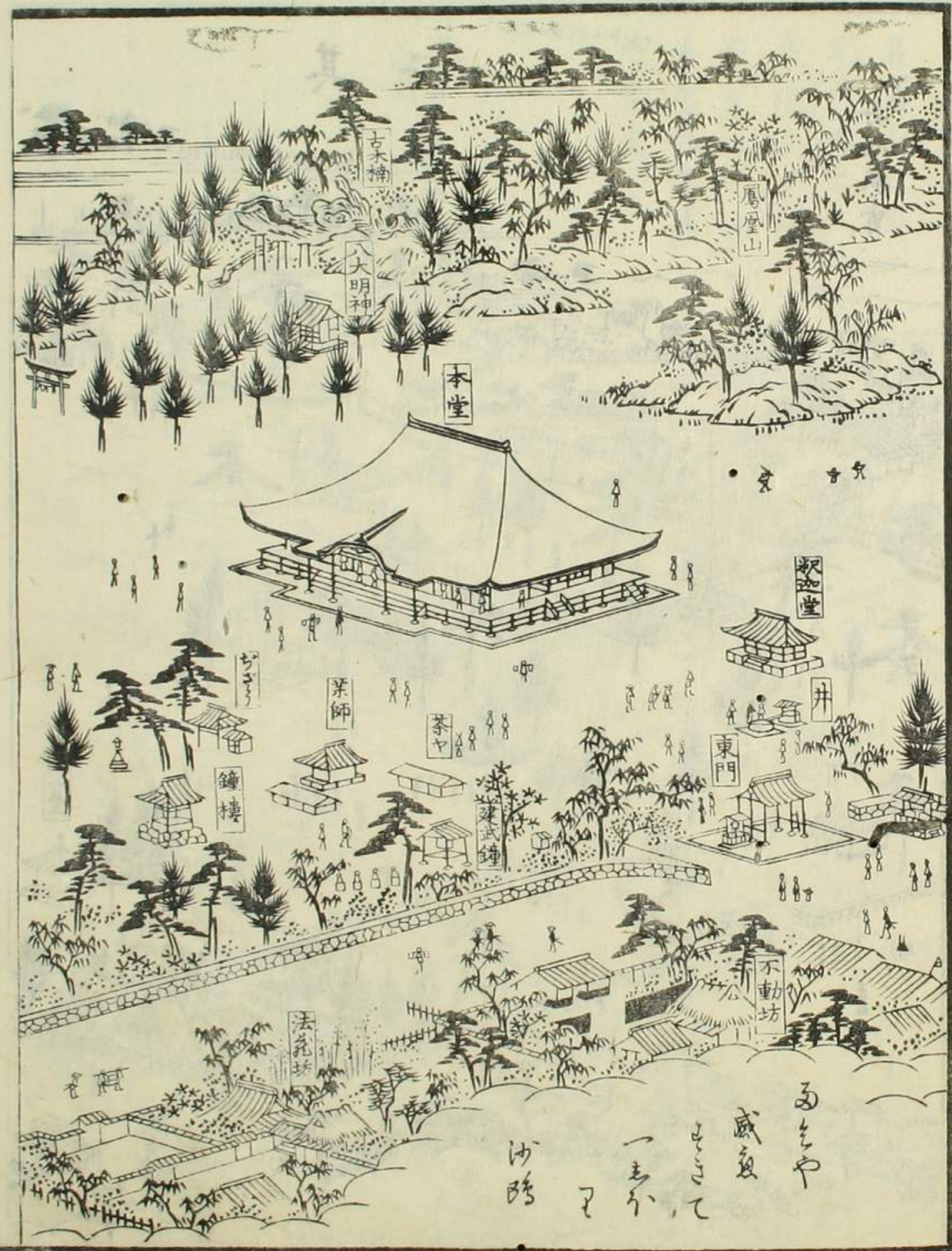
壽三年癸酉更小一字と造立して就磨れ像と安坐後田孫
末

十康和五年癸未散位者系連長僧智能共小私力と授

再嘗すも僧及び下司大江重房等も亦合力して堂舎修

小復古せり天治元年甲辰二月朔日の地震小又堂宇破毀

す大治元年丙午春當座下司散位大江為通及び長部長

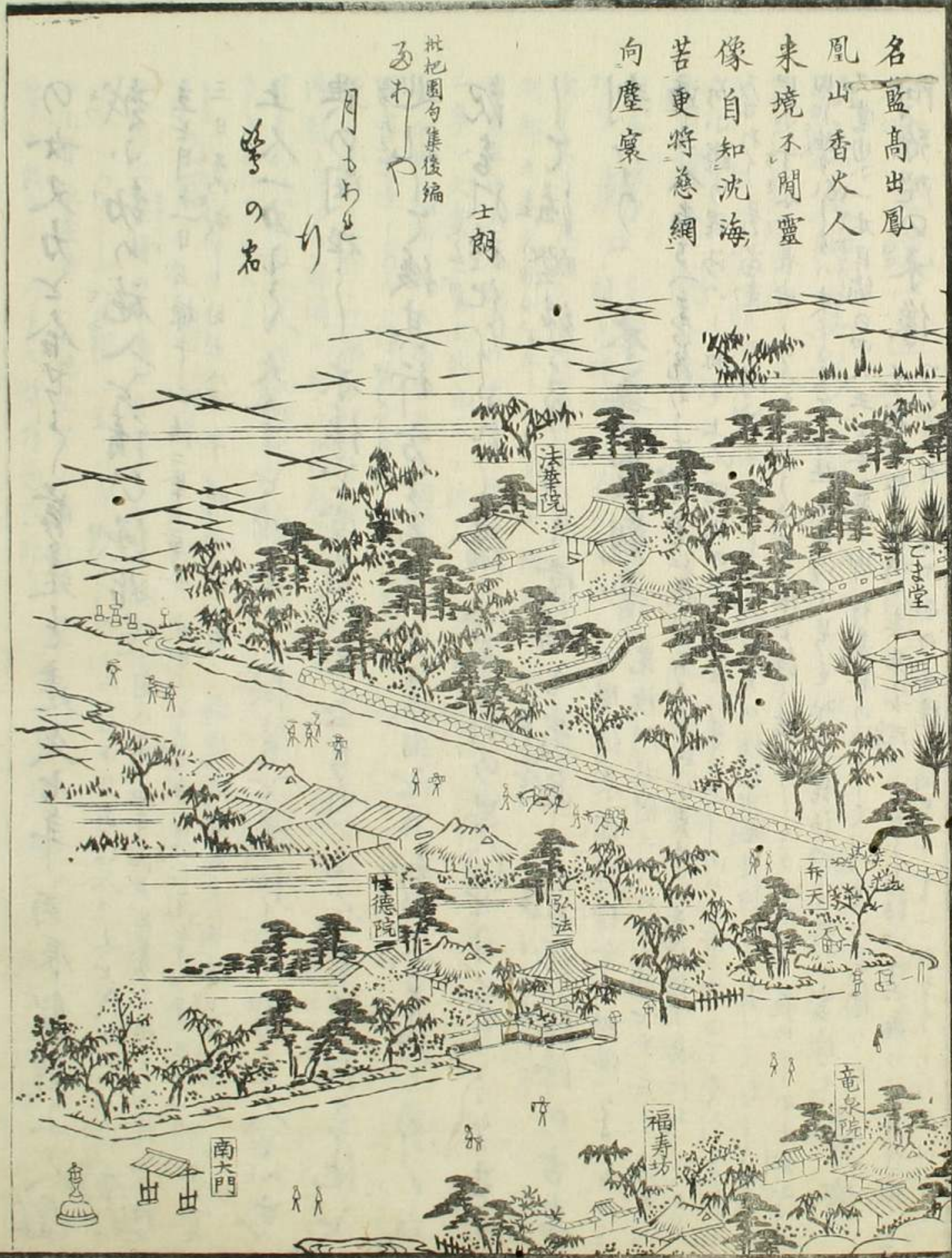


名藍高出鳳
 鳳山香火人
 未境不聞靈
 像自知沈海
 苦更將慈網
 向塵寰

此把園句集後編
 あり

士朗

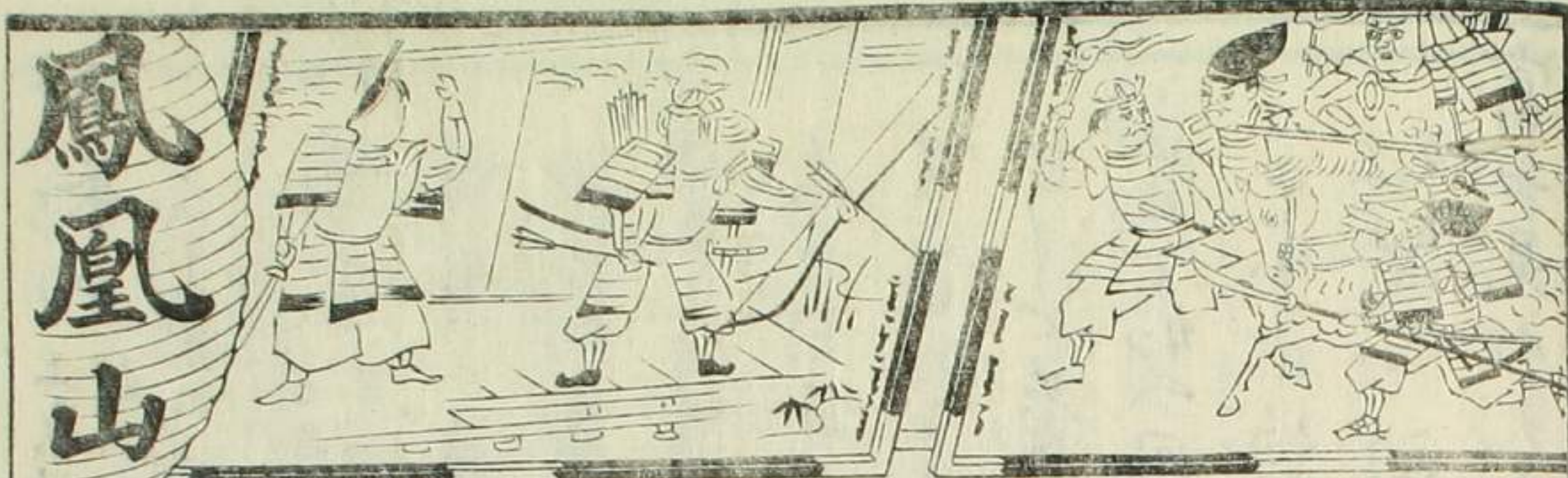
月のあはれ
 の石



其二

丹羽教齋







高橋



義教公
出田村に
富士御覽
の図

来画像

宅唐

豊國大明神の神号

秀頼公八歳の幸い介持

小町塚

田村に

寛永八年二月朔日八旬ありけり是僧は里に來り五帝

右の... 其所と云ふ... 小町の由来と云ふ... 一生の事と云ふ... 且南無... 小町が八百八十年... 結縁小町が善提... 九帝... 観音と云ふ... 少く清心... 患へけり... 小町塚... 里人の口碑...

すのこ

新居家川

田村にあり水原中島郡... 新居家川... 尾州海東郡二寺高宮... 羽柴少将藤原正則... 仁右門... 祠官

高宮社

二ツ寺村あり... 棟札あり... 其文云右為當郷神社并拜殿等... 尾州海東郡二寺高宮... 羽柴少将藤原正則... 祠官

福嶋参議正則宅址

田村小町... 正則知名... 村の赤林氏... 彼公朝真... 小叙... 二月十三日... 長五年の紀...

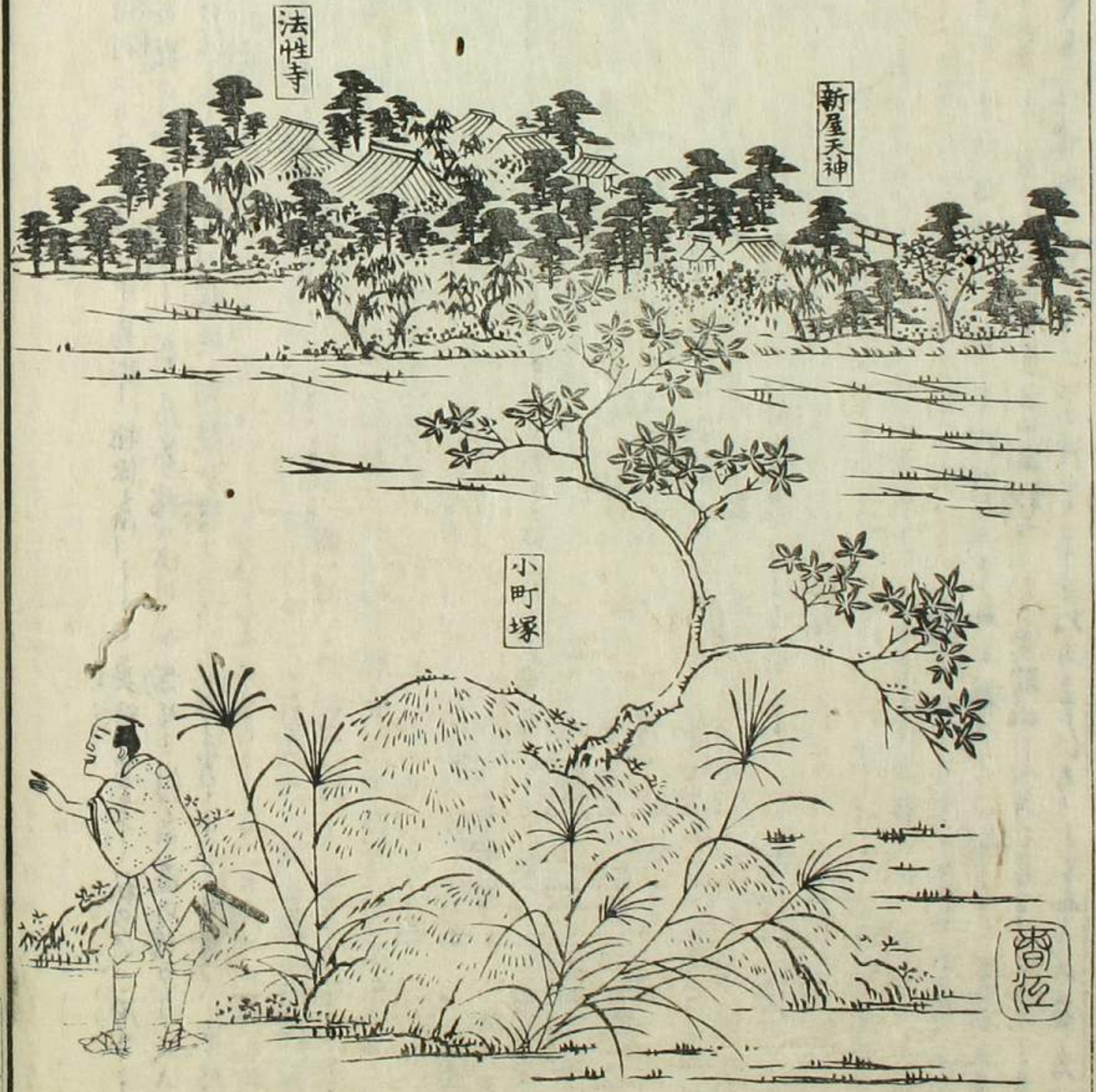
小町塚

九月よりこれ日妙
谷といふ里と云ふ
所の由ありて中
人のむしり小せ
小町といふ田の中
小せやうら塚の
あうらうら塚の木
の下のむしりあり
くもあうらうら
うれうらうらあり
小町といふ

高門

いしんけ
みやい

の



塚といふ
ふけゆたの
風を
あうら

雀叟

おきこれと
いふ所の
まじり
お小

石作天神



改修... 正則の... 瑞祥山...

瑞祥山 仙院 正則位牌 本尊 阿保院 寺

正則の... 瑞祥山... 正則位牌... 本尊... 阿保院... 寺

花正村 神宮の... 瑞應山法藏寺 本尊

瑞應山法藏寺 中橋村にあり... 本尊... 地蔵井

藤木田 連... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

木田三郎源重長宅址 尾張人志署に大...

法... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

貴船社 乙子村にあり... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

三位法印宅址 尾張人志署に大...

武... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

池... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

鈴... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

山... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

蓮... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

華... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

寺... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

須... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

賀... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

縁... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

起... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

小... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

云... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

弘... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

仁... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

九... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

年... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

弘... 瑞應山法藏寺... 本尊... 地蔵井

蓮華寺

十時梅屋

大道遺靈是大師
 竺蘭萬劫此開基
 自為塑像趨
 庭闕別伏蜂王傳
 口碑寶樹璨々憑
 惟石芙蓉的々出
 清池難因羈絆尋
 名勝聊寫所聞寄
 小詩



阿部松園

塚上玄蜂腹若毒
 村人不敢涉郊墟
 當時如少大師咒
 何術驅斯毒螫除

密法淨の蘭若の
 の行り年の一睡清
 宗入

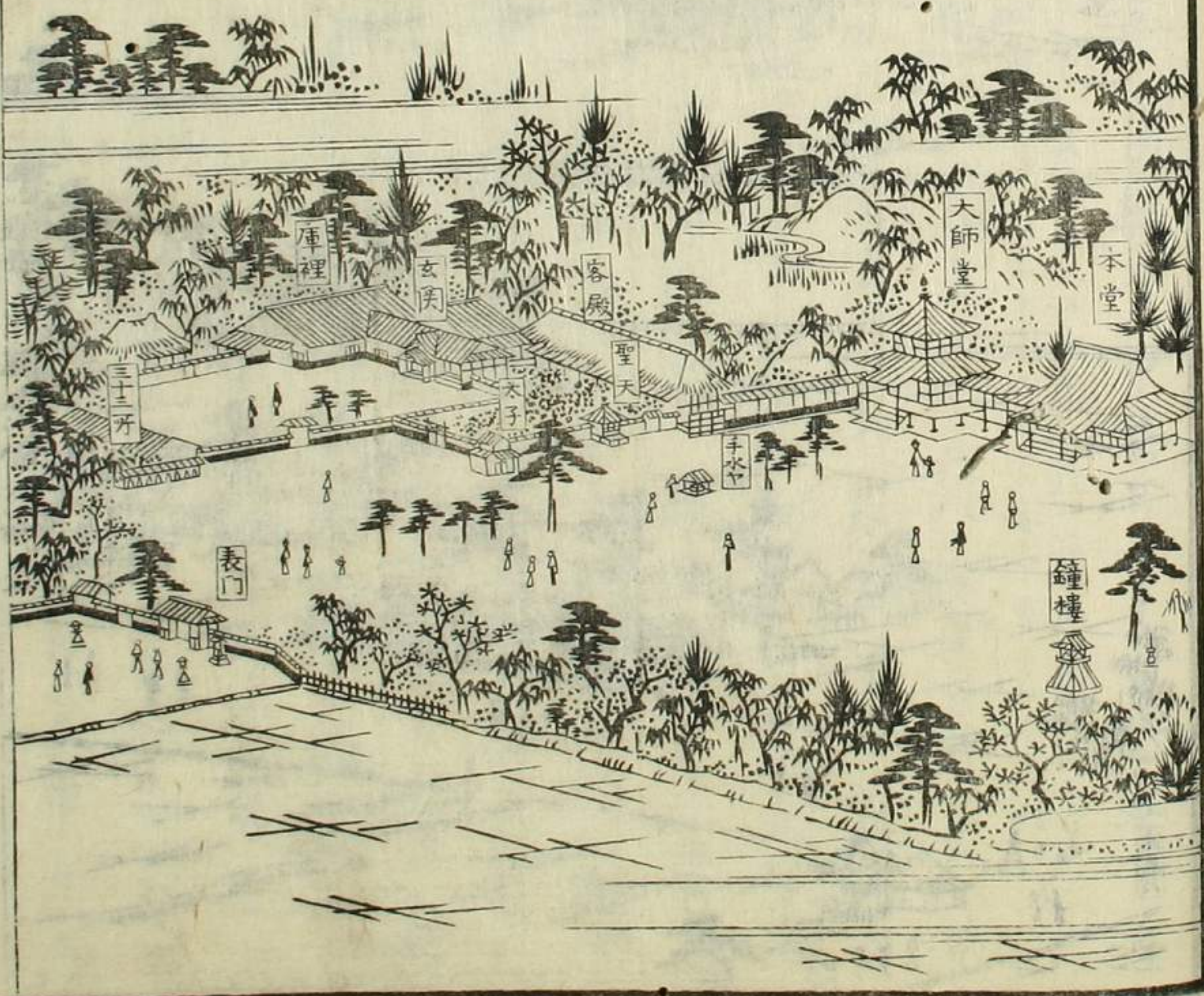
曠基

秋の浮島

浮島小

を

秋の浮



其二

是却しよ

居すまひ

かえ侍

桂の耶

其峯



開基して文永元年良敏上人中興せし志を宗無本寺

の巨刹之上人山城國岩倉の良因上人の弟子うねいあま若倉流しす

り大師 勢田大神宮へ系統して千日護摩と修せん誓

願ありし小折り活中疫癘流行一衆庶あはすと苦しくるが

系うくも 嵯峨天皇少しりむい 厭慮安う以大智識

として除疫の祈禱うきりんく 勅使右中弁友系在

忠節信と當ふに下 室言志うくと大師小若りハ 勅命

黙止ぐく又千日の誓願も悔意まへるべし一夜の内に因れ

出とるゆと自像と造りこれと 大神宮ふりてそ身ハ都

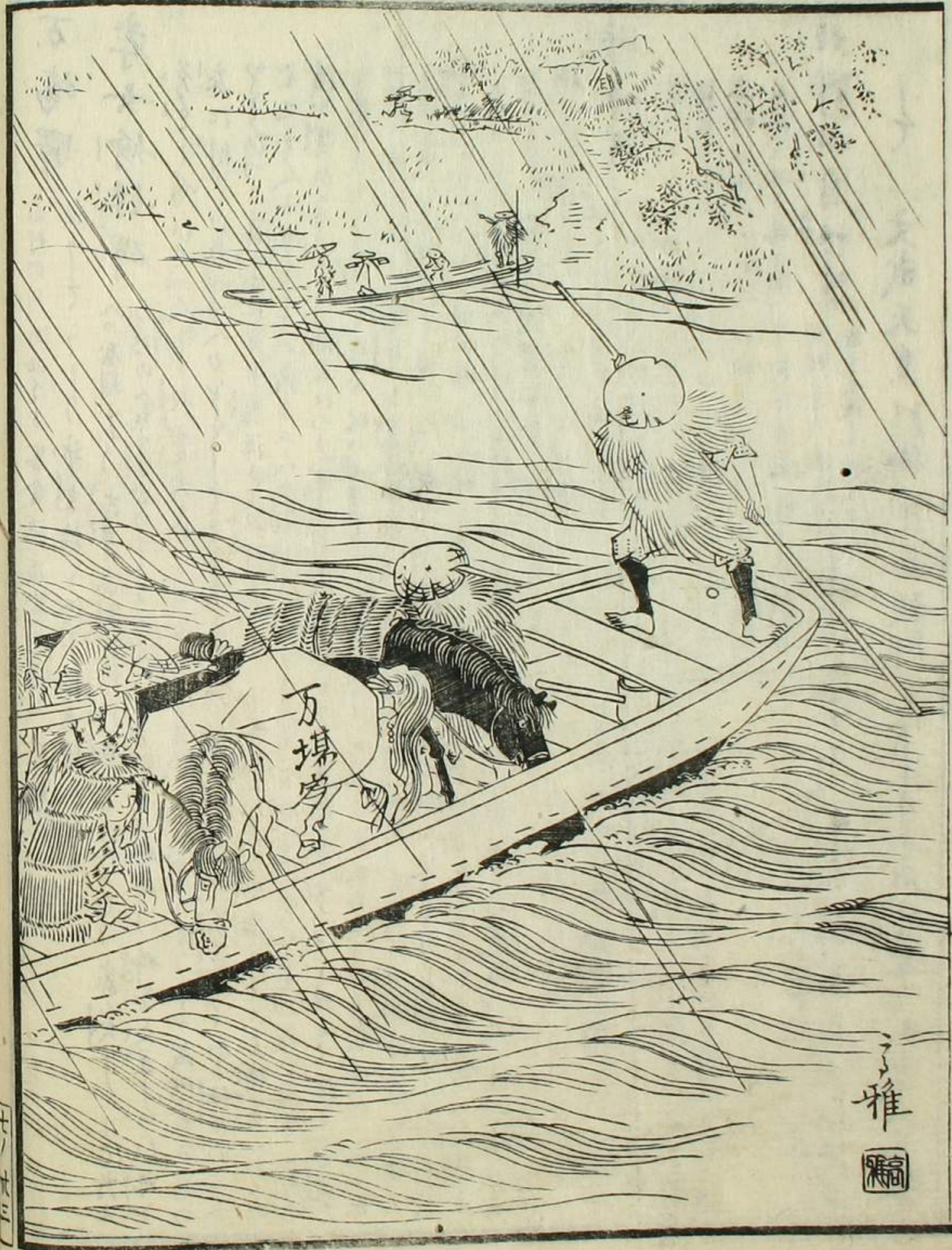
小より系内ありて又護摩と修りありしが修く活中活介

まぐも邪氣消散しけしハ 御感斜う以大師の威徳上

下に輝き法力四方に著る御がぬこのもなりけりかくて

再び勢田に來り千日祈願と結いしけるが留ちの中をさる

万場川船渡



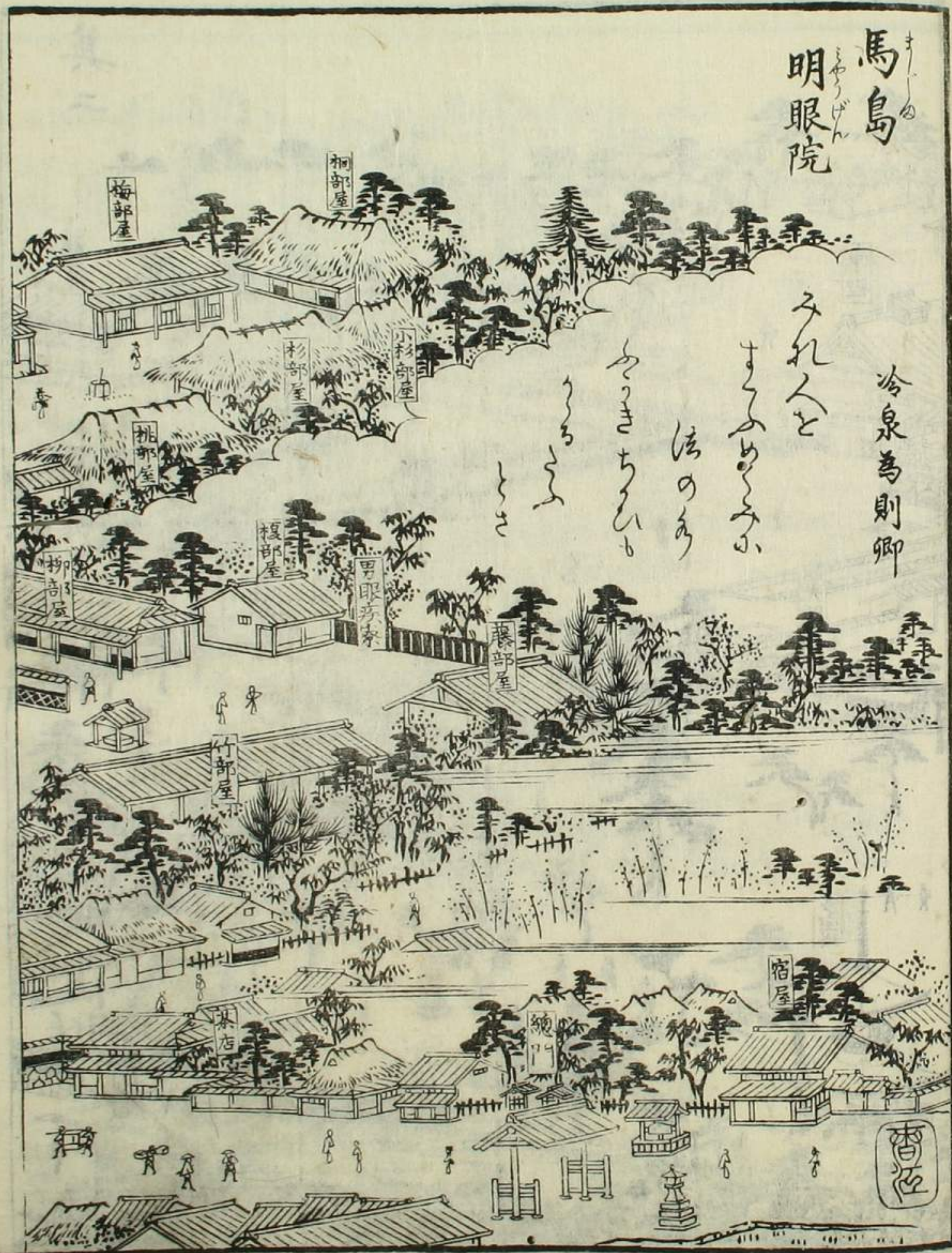
雅
編

の大風小堂塔傾頹を志すに建久五甲寅年四月上旬北條四郎
時政關東より上洛の刻小當され本尊へ移すの形致すかけ翌
年下向の時暫く當寺に逗留りて一ツふ右幕下頼朝公
乃清教ニッハ我宿願茶籠の謝恩の爲め堂塔と再營し寺
依とも寄進ありしを院所今も猶敷通存せり ○本尊茶師
如來及び十二神の 寺室縁起二卷 延慶二年小 鰐口 銘小尾州海東郡
も 行基并の作 書写すりて 富田庄成願寺鰐
口也 大檀那川崎右京亮通直妻
文明十八年丙午十月十三日あり

春風やひら乾きり 寺 梅 兩白

五大山安養寺明眼院 今枝院一坊の妙 當古草創ハ 桓武天皇ハ
御宇延暦廿一年聖圓上人開基の灵場と云り上人瑞夢と感
得して此小堂塔と基立し先行基廿廿の刻め茶師如來乃
尊像と安座す上人と云り学徳兼備の智識と云バ此益日
小堂に有信の男女山のぞく資財と持けりる小ぞ殿宇構閣も

日ならずして切と矯へ終小十八の坊舎とも左右小列し大伽藍乃
巨刹といふぬ 今枝院一坊の妙 夫よりして法院終るりて後
然る巨刹なり元弘建武の亂小兵火かりて悉く灰燼
せり志すに本尊茶師如來及び慈覺大師の木像亦の僅小
け災と脱せり茲小清眼僧都修くはりて悲々當寺再建の
志致とおこされ小佛カレ加被も空しく延文二年小堂つ
く又堂宇の結構頗る古小復く壯麗とせり尙小清眼僧
都と中興の開山とすさて尙眼科の一流天下小冠るるの
る僧如尙小茶師と信仰とあり大方ありし小或教義中
小如來告むり汝我と奉りてやいふ年有り今汝が如來希
世の術と云えん是とん普く庇生と涙もく末世と利と一
と云えん一巻の書と壇上は得り感致肝心流るる意と
是とん小眼科の奇術と云せり見は術と伝ふる意と



馬島
明眼院

冷泉為則卿

みれんと

すゝめくみみ

法のみ

かきちひ

香煙

のゆく一人して愈ざらんや、いと真助れ幸方とて代り、由
 ちよ徳ふりふれ妙術、こ折あましく、花南坊とひしと
 明眼院と更り、寛永九年 明正院 上皇 院 後水尾 の御宇 の女三宮
 清眼、清不豫あり、小京師の宿官術と考へ、幸刻と進
 ること、下も又小を治り、あつ小、あく、尚院眼科の名
 天聴、小まきり、召とらして、召のがる、任僧園、茶
 々、勅とまき、玉座小、迫づき、則清眼小針と、又茶と
 然り、小日、清く、平愈ましく、なれ、敷感の、修り明眼
 院の美名と賜り、且清會、短冊及び茶忌、あ、黄金、救十
 枚と、賜り、是を、醫王善誓、洪慈の、うと、なり、て、まふ
 人力の、及ぶ、なき、小わ、清、又廿一世、園海法、明和三年、戊十月
 廿二日、桃園院、中二宮、清眼病と、治り、ま、效験、園夢、法、下
 の、時の、ゆく、ると、は、是、亦、敷感の、余り、権僧正、小推任、お、小、是





南し安茶の
とくは傳へて
世の人共
やまひと
すまふ
寺ハびち
岩倉具選卿

尾張名記
真面ハ
席竹
のり
萬子

よりして終ふ 勅預所よりぬ ○本尊 茶師由來行 宝塔

原信僧都の刻り大日如来と安 樓門 佛工運交自ら寄附す所の二王と安

白山権現社 聖田上人の壇と築き 祠と建く 諸邑及び十二隣村の産

辨財天祠 境内の他 馬島天神祠 境内あり本國

寺寶 御會短冊 勅賜茶器 種茶抄 瀨戸支林

茶入 呂宋茶壺 景清甲曾并唐櫃 王達王世

花鳥二幅對 景清甲曾并唐櫃 王達王世

貞兩筆の詩 夢想國師書 十六善神一幅 藥師如

来一幅 川渡布袋一幅 菊慈童二幅對 瀧見觀

音一幅 維摩一幅 神農一幅 山水一幅 枯木

寒鴉一幅 後水尾帝宸翰の御懷紙 陽光院同幅 妙

法院 堯然法親王和歌三首 山水屏風一雙 古画屏風

又多由し 書院壁張付并 禪類 已上のりず 丸山庭奉れ 墨画は 弁希代の名

後園の假山 後園の假山 後園の假山 後園の假山 後園の假山 後園の假山 後園の假山 後園の假山

明眼院八景 醫王殿 今古癖泉石入音盲身在杏林裏青囊世々香

烟霞 多宝塔 祇園宝塔 響法門元自有神通 松杉擁翠壁中有托神靈蕭々數千歲庶民祈泰寧

行到 妙音宮々前涼華表自似彈琵琶春風生樹標 高閣 撞華鐘曉風遠相送豈唯為報時應覺人間夢

茲山 何屹立莫道代天工相似赤城外更過神闕中 春霞 凝岫紫夕日映花紅借問栖身者仙來不老翁

寂莫 禪關外有亭百又程何人明月夜長嘯作鬻聲 觀魚橋 不驚架影裡駢頭迎悠然心樂思莊

一森山圓長寺 西條村小川 本尊 天台山の古刹一

藤島神社 秋村小川 本尊 藤島神社 本尊 藤島神社

天桂山廣濟寺 本尊 天桂山廣濟寺 本尊 天桂山廣濟寺

伊福部天神社 伊福部村 本尊 伊福部天神社 本尊 伊福部天神社

河葉天神社 川邊村 本尊 河葉天神社 本尊 河葉天神社

例祭 二月十七日 奉射



明眼院
後園の
林泉

藤島神社

秋竹村



香

圓長寺

西條靈地
王城繡棟雲
楯修理成常
樂開門容善
士易行傳法
度群生雪封
北嶽窓極敞
月出東山樓
閣明最是春
風揚柳道啼
鶯聲和誦經
聲

六橋



玄關

書院

庫裡

觀樓

茶室

鐘樓

手水

柳道

和

香

野

月

館

面足尊社

引産引村小あり... 次内信光神室の古面及び太刀一振と持て... 今に於てまてまとの事伝ふ由りなり

義經弓掛松

下田村にあり九郎判友あり... 松とて矢落り... 百町村と名づけしそふ矢落の社

神守驛

頗る壯麗にしていと賑は極り... 佐佐木氏の馬場と傳ふ所也

憶感神社

因西にあり... 神徳實録に仁壽三年六月丁卯以尾張國大國天神大御... 別當憶感山吉祥寺

日光川

諸桑村と守佐村の間にあり... 頗る大河なりて佐佐木氏の馬場と傳ふ所也

諸鉄神社

諸桑村千手院境内小あり... 諸桑神社名式は海部郡諸鉄神社本國帳より從三位諸鉄天神とあり是より同集説に按對馬國天諸

日置村

和名抄小海部郡日置とあり又民部省國帳小富岡明神有日置之村去村二百歩也長保三年初奉官殿神靈豐岡比咩也

若宮八幡社

因村小あり祭神仁徳天皇別當光明院と稱す又社殿小十一面... 今も火門を拓き先より本社まで三町

八幡山光明院常樂寺

因西小あり別八幡の宮寺とて志云宗大須古徳也... 末右大乃傳抄稱之の創建なりと傳ふ所也

本尊

基井井の作... 寺寶大般若經... 百竹をありて織つて之を全し

例祭

正月十五日管粥とて五穀を入りて豆粥の中へ入るを考加減... 又八月十五日當所の十

八幡山光明院常樂寺

因西小あり別八幡の宮寺とて志云宗大須古徳也... 末右大乃傳抄稱之の創建なりと傳ふ所也

本尊

基井井の作... 寺寶大般若經... 百竹をありて織つて之を全し

常福寺

九十卷の負書に建武五年戊寅七月十一日於尾州海西郡日置庄一色... 常福寺州卷右筆安養佛子覺忍とありて竹の志くあり各年号との也

舎利講式殘編一卷
梅尾明惠上人自筆の文書と云ふ
甚古雅なり其書に建保二年正月

廿七日沙門高弁草之と云ふ
原本の代の附書なり

甘樂名神社
其村井村の村に本國帳に正一位甘樂名神とあり是なり
其府宮本正一位上甘樂名神とあり今八幡と稱す

由乃伎神社
柚木村に延喜神名式小由乃伎神社本國帳に從

三位由乃伎天神
一作夜祭とあり同集説小私曰天孫本紀所

謂湯支命者三見宿禰
漆部氏之祖也出自之人也蓋此命故と見

えく風土記殘編小の湯貴首人等が祖神と云ふ今

俗小神内と稱す

佐屋驛 東海道五十三驛の外にてあり伊勢に素名驛

小波のありと佐屋よりと云ふ由は頗る繁昌の地にて旅亭

客舎軒と並べ行くつひ絶るなり

相江天神社
内佐屋村小江本國帳に海部郡正四位下相江天神とあり同
集説小戸田在佐屋村三社明神歎と云へて今三社の稱と稱す

水鶏塚
因所跡中の南にあり入口に標石と建の碑面小
芭蕉の句及び内人夢川が文と彫り

水鶏のつと人のつとや佐屋泊

芭蕉

芭蕉翁は伊賀の鹿を以て氏に松尾と号す風雅と季吟を
小傳り一せ不飽の相客に東南西北の風小移り道遠より来り三十餘
年元禄八の年鼻月の初予所の行脚と云依屋の宿小送り山四
行末の亭に五日と云々水鶏の一老と號し縁にひかれては里
の松竹の茂り麻の育小似たり夫々中に寄閣守林庵と云々等
龜志宜助力と加へ吟山施と云々つと墳と築と碑と建て流と乞
銘曰

伊や浦邊にたれらと 情小淋一姿ありつとに

伊やあまのつと 枕ありつと 今玉味唯のあまのつとを

伊や膳勝軒 留小つと 教了正風自在と云

伊や宮に居る 鹿小つと 秋して世に風雅のを

事保平己卯年五月十二日建鳥 月空居士夢川

佐屋川 田面の西より 是木名川の下流にて水原ハ信妙に流る

郡奈良井野の鳥居嶺の柔よりハ形跡美流と云ふ

川くのころろろ流合或ハ流一伊勢の素名の流下小玉

て海小入凡と六十里の流とて川中甚廣く水の勢ひ

月もあや水鶏のつと佐屋の上

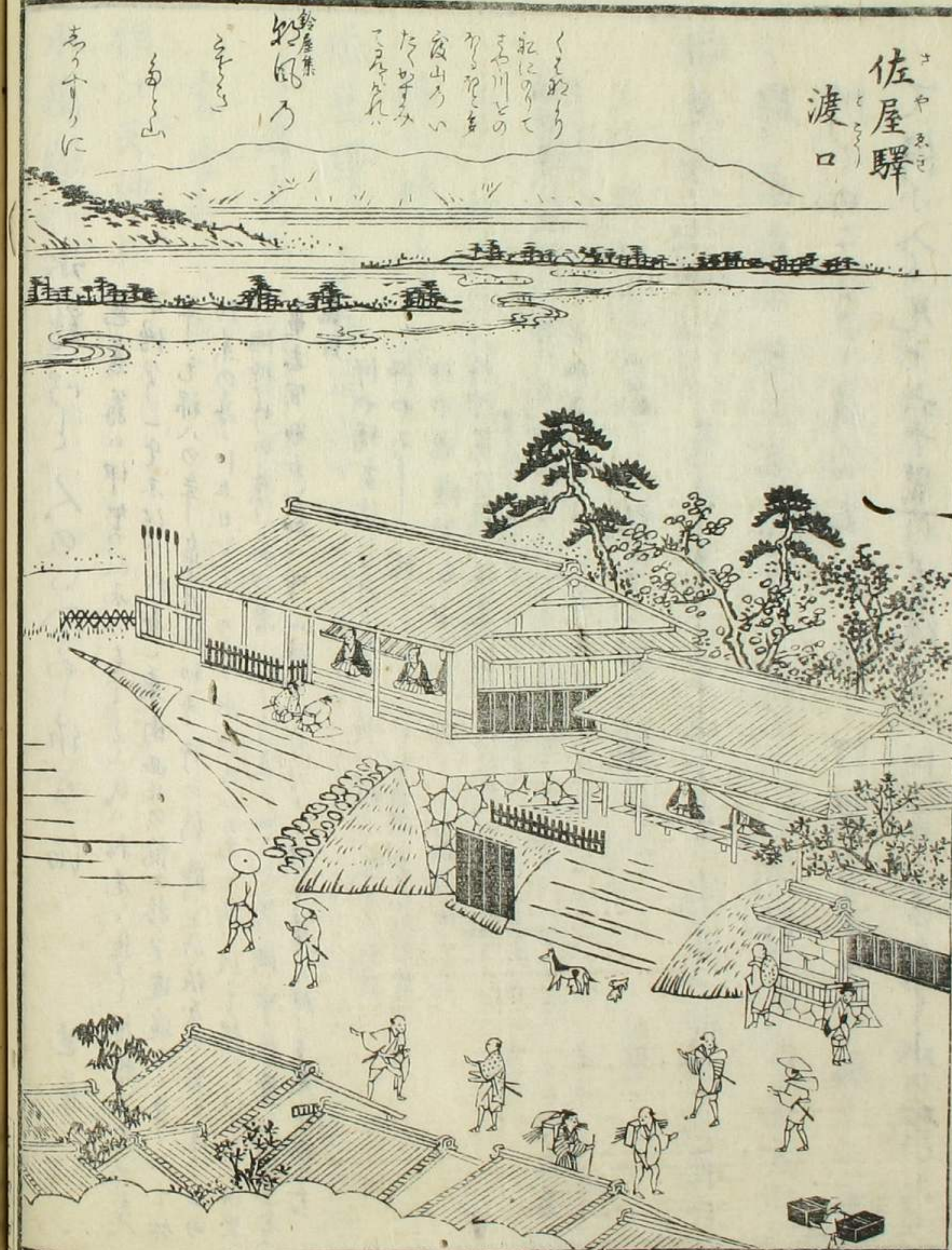
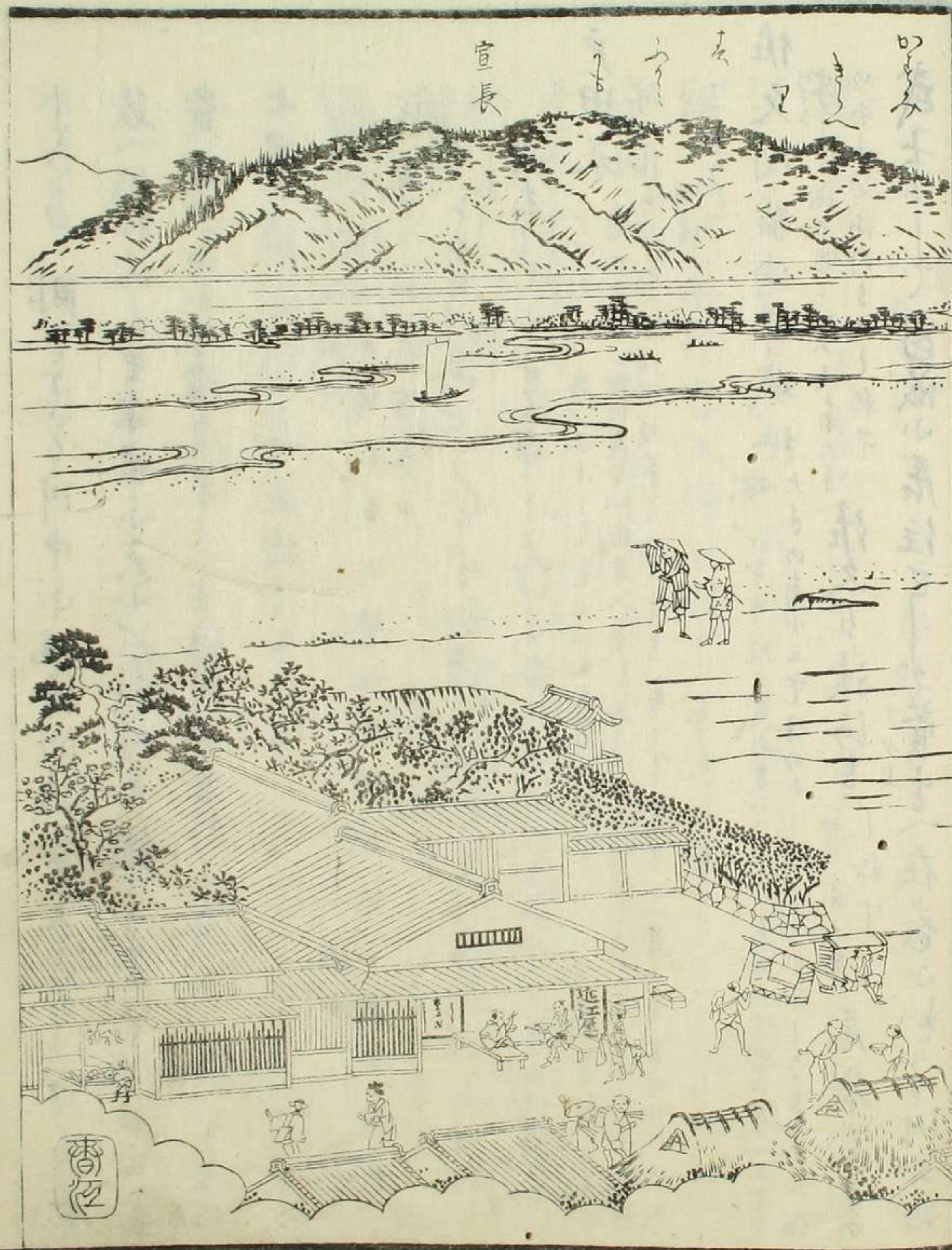
素壁

佐屋川 田面の西より 是木名川の下流にて水原ハ信妙に流る

郡奈良井野の鳥居嶺の柔よりハ形跡美流と云ふ

川くのころろろ流合或ハ流一伊勢の素名の流下小玉

て海小入凡と六十里の流とて川中甚廣く水の勢ひ



しきり 剛たけてざく川中小橋橋油流木の島ありあり素
名への弘治三里余常小大小れ弘徳素絶るりうくしん縉紳の言
貴及び西山の諸侯方も皆け川と登りしきりありし河の
七里の海小はげけ弘後し

自海國通稱 佐屋船中 伯就
水波 縹渺夕陽紅多步歸帆掛碧空河上長雲飛袂
畫織々 初月有無中

時去してさる布とんゆりふはるの河也の雪のむきん隆真大尼

戸田米

戸田村より出る布として上り九月上旬迄と 國君(孝親)も此小
苗玉の内村の産と種米の中一取す又は村より産する所の紫風味
甜小揚と名に世に戸田米と稱して名産をも是も十月上旬苗村の山田氏
より 國君へ
ちてまうまう

佐久間駿河守城址

嶮あせにおかれ難攻の方ありて東西五十四町南小五十町
大字城の内と云ふ又南大字 大島の南小三町城のありけり今田向とうと云う土俗
のわくと海門口口と稱す 佐久間駿河守 初り基九郎 尾張本費の
武士して尚城小居住せりが菅生へ在番小ありし時お田

与十郎

駿河も母方
の伯父なり

よて尚城と云ふしむ志るに与十郎

逆意と起し秀吉公へ内せりしう終ふらる合戦より及
びぬる小瀬浦尾が太閤記の流川左近將監一益あきは云
年まで小伊勢五郡と依り本流の城とて有りし
柴田滅亡の好ハ甚害の身となりて江州南郡よかして法
慈寺五子石と依りて居りしと云れありしと云流の城と信雄は
依りしと云ふと申ししうかち知小信雄はと秀吉は既小津
橋小おびいし勢妙木造の城小流川と富田平太の
通直 友人をあるして入るひぬ流川おしやう城に
の城と調略し尾妙小おしやうて中入し 家康はとど
おびやうしんむと謀りて前田与十郎方へは若秀吉は
忠義といふまれば一庶恩賜の地有べしとひそに陳
わけとバ即ち因どりきとて来り六月十六日の秋後海

城小入りし約しし猶も九鬼右馬允小け告知せあ
人の勢勢合三子大船お糸連おけしし流川勢半は堀
江の城(張)入りし即一益を入城して柵おのり
くやく中けんしきし文にいうる者れ志しきしやん
酒家よ入し放火せし思はずも三十百もり焼かたり
そ新ま 家康は清洲の城おかりしけりしは酒を
押しし先海の方と固り城中(流川勢)入りしは又
大船お取寄りし流川軍をかくて城と二重三重に
柵と付し十九日は樓樓と上げ城中とんおりし
流砲と入り射すしお入れし火矢と四方より射入し
蘇波の声とわげ流砲と子の方よりけりし初め
うら納めしは城も又ほと返りし終夜のしき

城の云々城の脱ししは小入ししは上矢ししは玉葉も
ししは流川扱お流し退えんとお流し謀りしは志し
はくおりししし即城を流ししは七日勢お木造
の城(退)けりしは富田左近とあけけ城小入し
りしは富田云々の堀江の城と退ししはしし堅約も
おんしは城(入)ししはししは流川天守ししは
地ししはししは境界ししはししは越前れししはしし
てししはししは豊臣秀吉譜小瀧川左近將監一益者柴
田滅亡之後潜居于越前秀吉惜其武名使居伊勢神戸一
益聞秀吉信雄締兵乃遣使于尾州蟹江城主前田興
十郎曰汝可盡忠于秀吉若然則恩禄不少矣前田聽
之於是一益與九鬼右馬允嘉隆乘舟入蟹江城大
権現信雄共聞之即率兵往攻之酒井忠次神原康政

圓成律寺

えんじょうりふじ

冥通上人三十

三田此

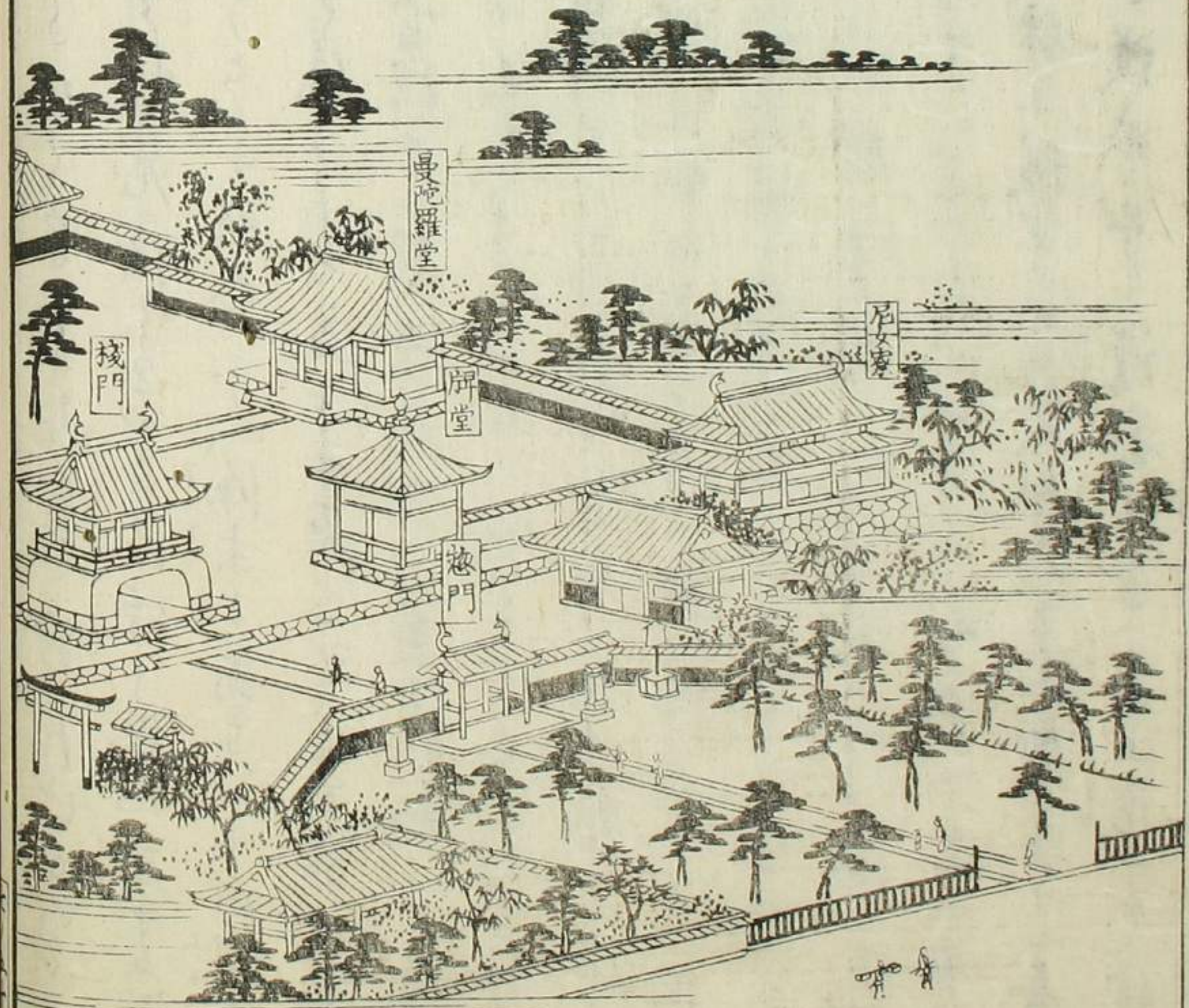
法皇不

あゆ中納言持豊

吉水の清き

ふれと

玉くけ



あつひ

とぬす

法の河々

あま

其峯

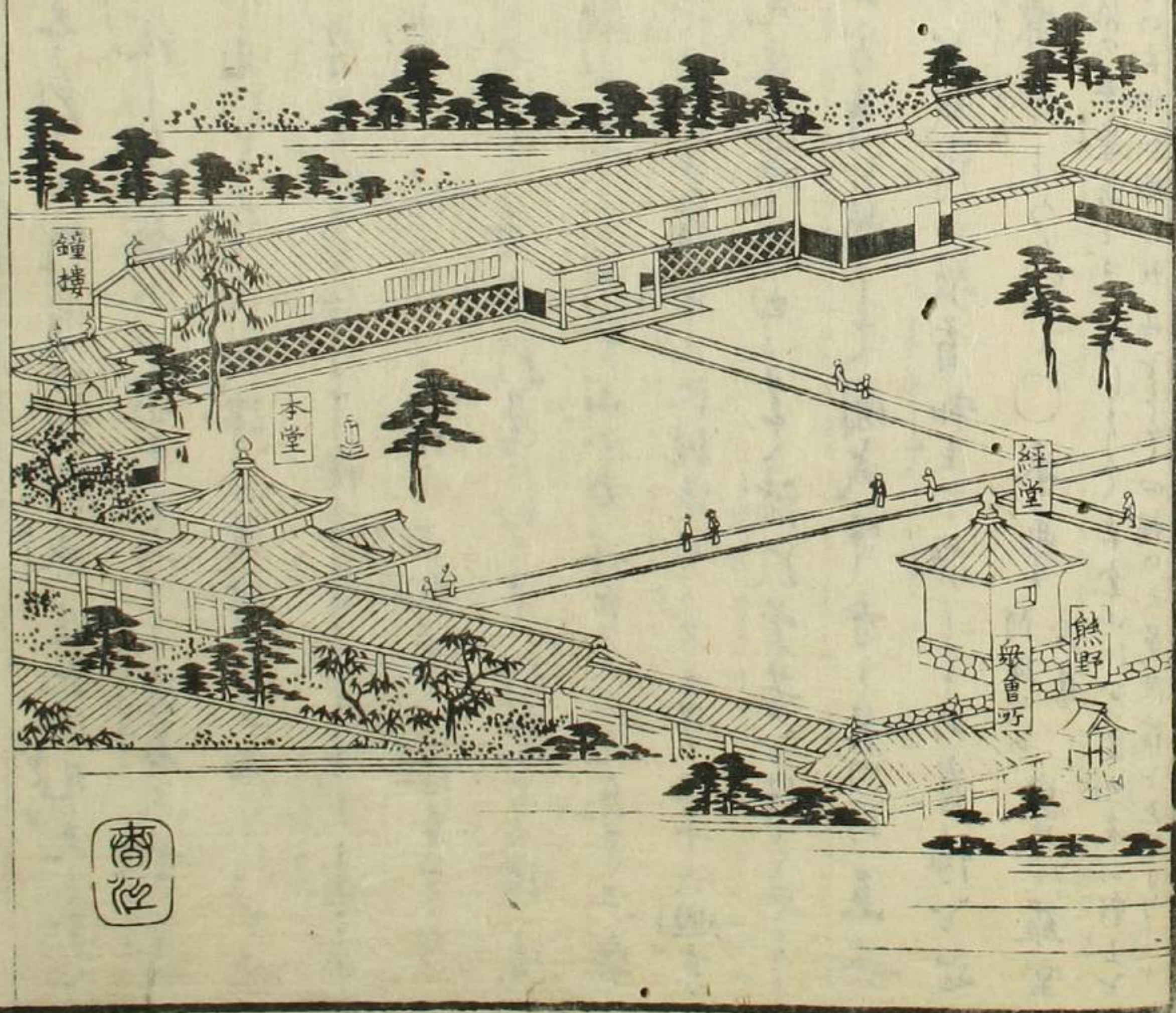
言ぬまに

寮

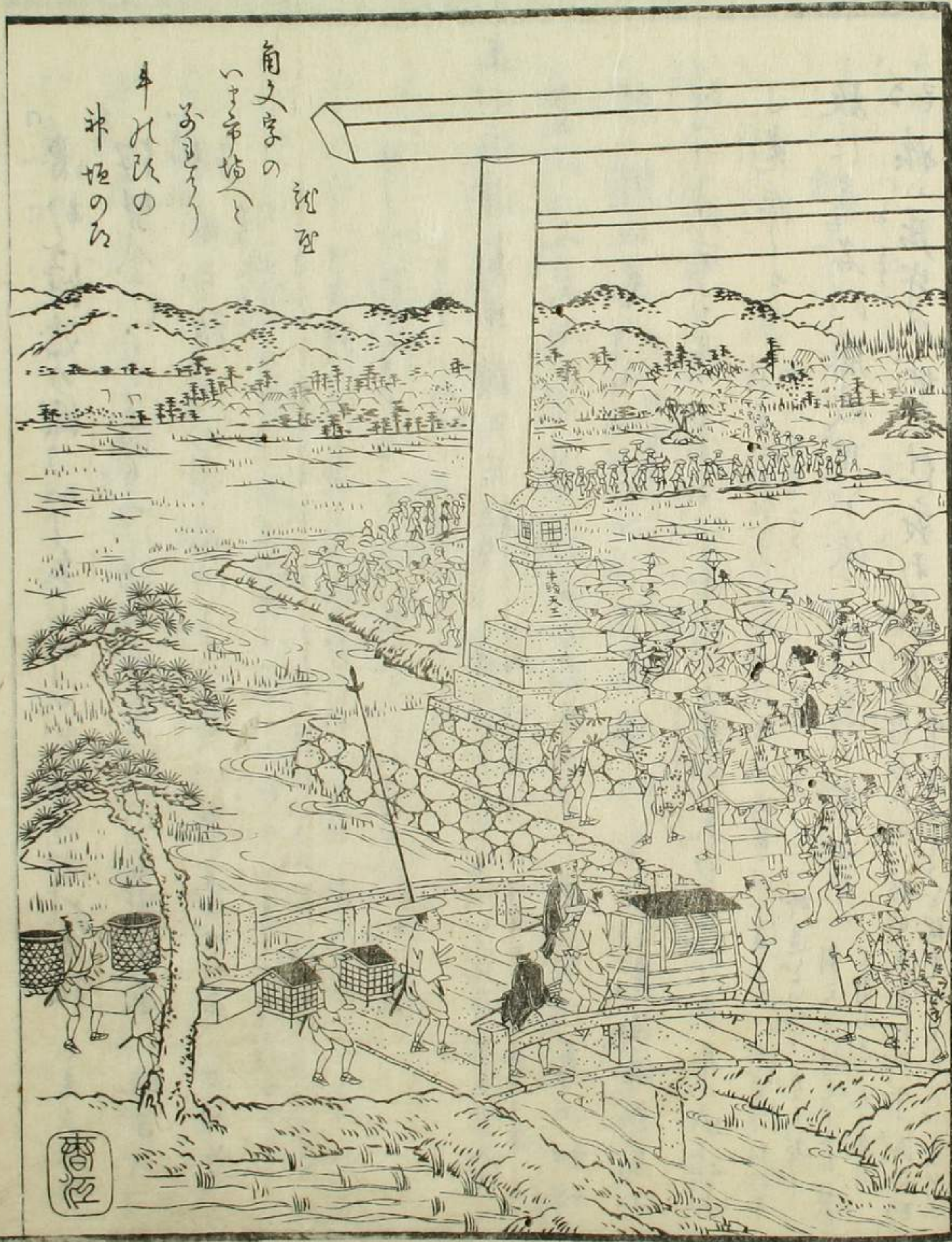
あつひ

み

わ

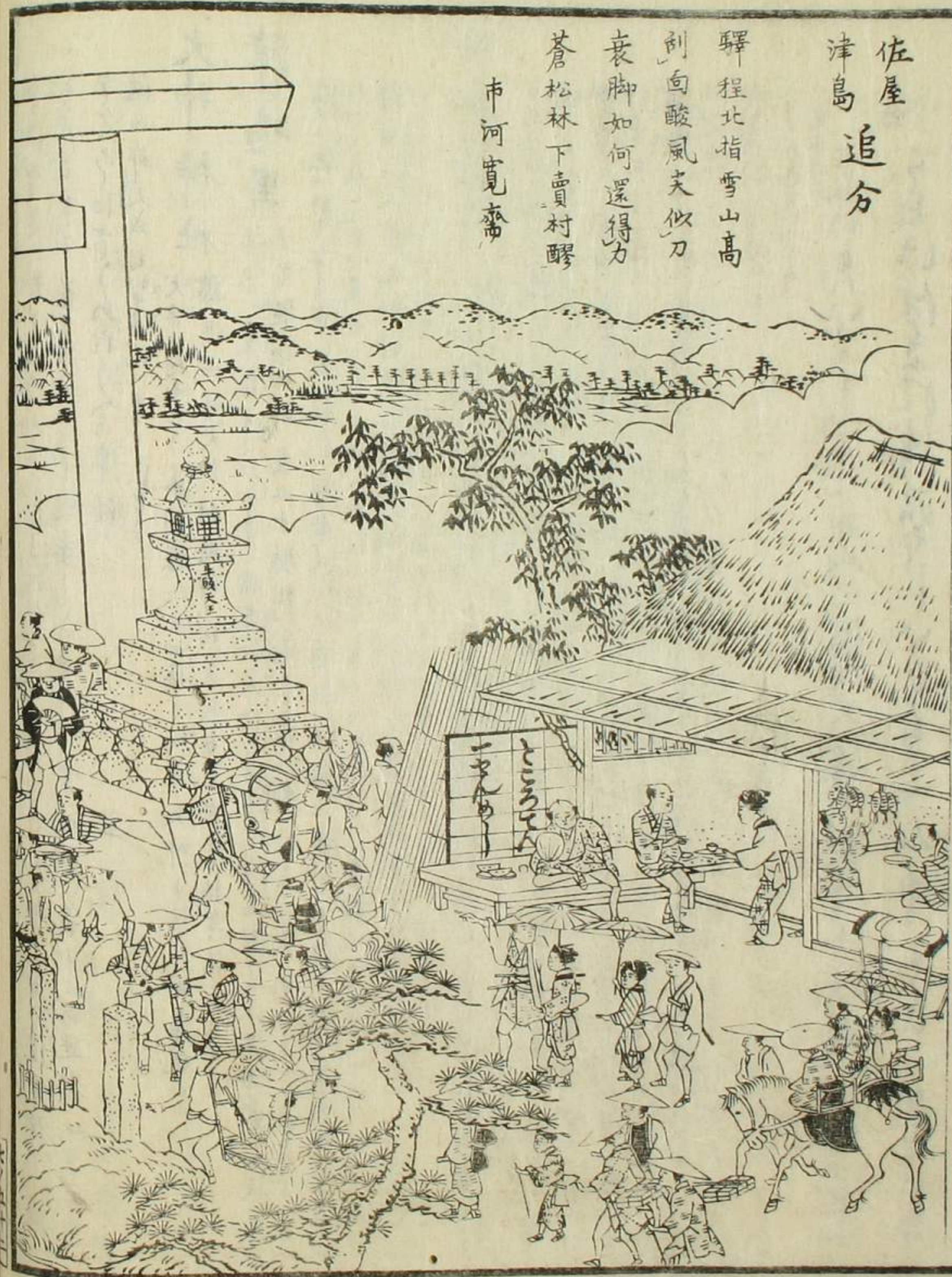


香印



南文字の
いす市坊
あまの
本れ改の
井垣の

南



佐屋
津島
追分

驛程北指雪山高
削面酸風丈似刀
衰脚如何還得力
蒼松林下賣村醪
市河寛齋

老群透詣人常に絶るなり

本社 素戔嗚尊とあるなり

小十七夜を以て素戔嗚尊とあり大己貴命左に八王子右に七名の神名帳に記すなり

瑞籬 祭供殿 拜殿 御供所 樓門 南門 神廐 文庫

繪馬所 神庫 舞臺 仁壽の辛 鳥居 御井館 手水館

等

末社 居守社 本社の南一丁にあり素戔嗚尊素戔嗚鳥尊の幸魂左に彦彦彦右に大

拍宮 本社の南にあり素戔嗚尊素戔嗚鳥尊の幸魂左に彦彦彦右に大

子社 本社の東にあり素戔嗚尊素戔嗚鳥尊の幸魂左に彦彦彦右に大

若宮御前社 因所にあり素戔嗚尊素戔嗚鳥尊の幸魂左に彦彦彦右に大

滝御前社 因所にあり素戔嗚尊素戔嗚鳥尊の幸魂左に彦彦彦右に大

熱田社 本社の東南にあり素戔嗚尊素戔嗚鳥尊の幸魂左に彦彦彦右に大

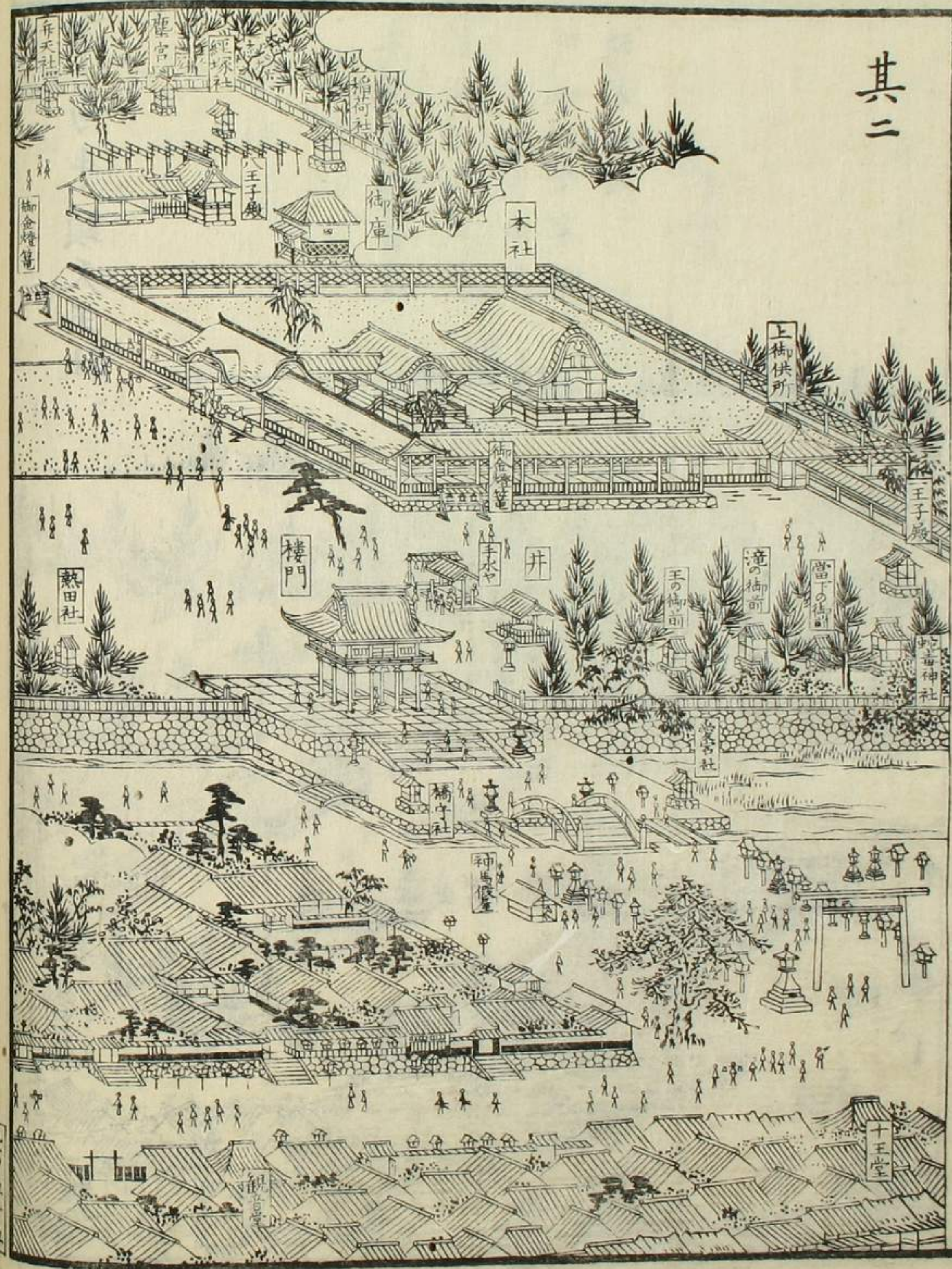
米御前社 因所にあり素戔嗚尊素戔嗚鳥尊の幸魂左に彦彦彦右に大

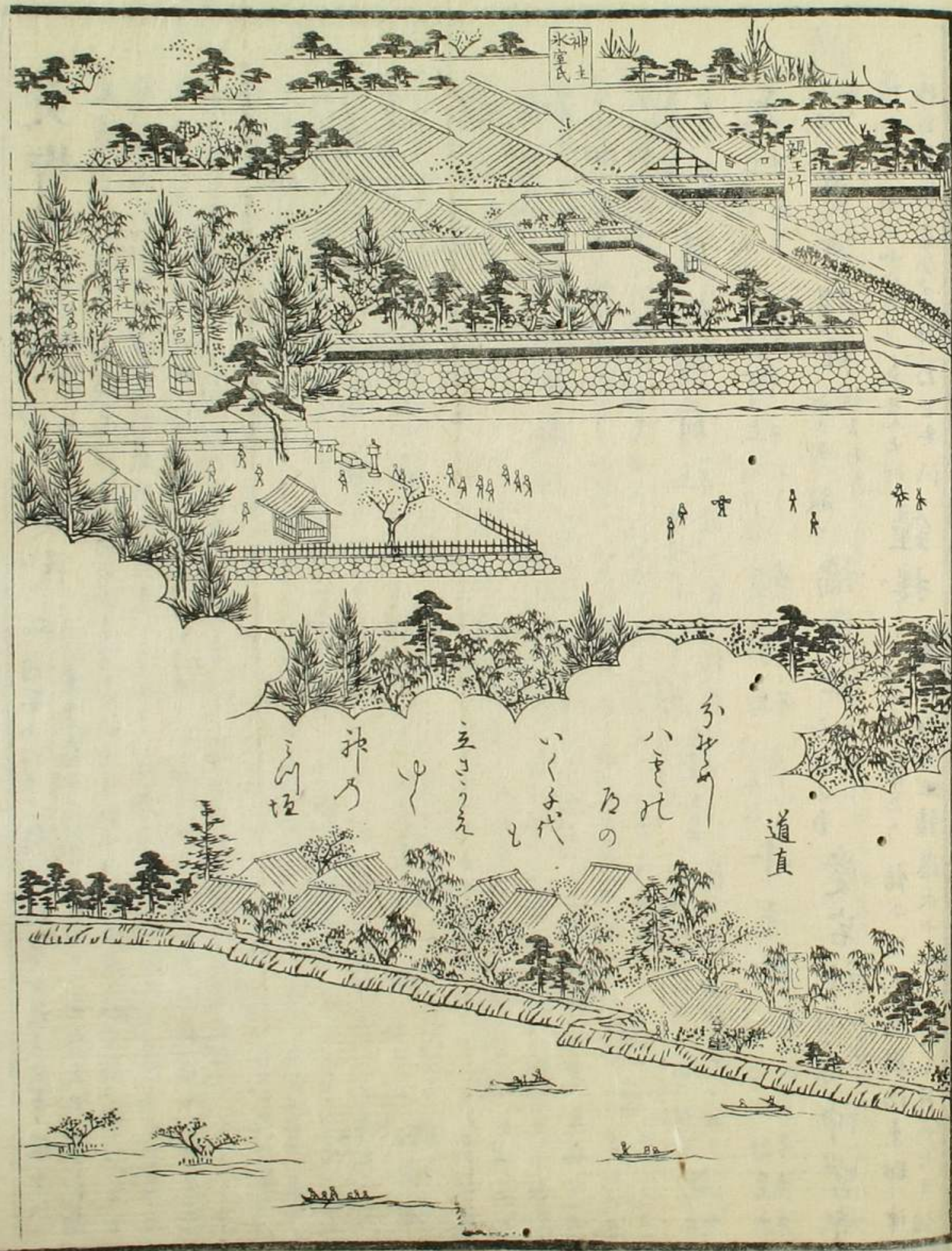
津島牛頭天王社

朱殿高臨舊海。津祥雲千載瑞。光新萬里方知。神化及階前不。斷各州人。

丹羽弘







矢御前社

同所なり

藤民社

同所なり

素盞鳴子... 藤民社... 素盞鳴子... 藤民社... 素盞鳴子...

天社

同所なり

見御前社

同所なり

見御前社... 同所なり... 見御前社...

前社

同所なり

内宫外宮遙拜

南門の内

内宫外宮遙拜... 南門の内... 内宫外宮遙拜...

弥五郎殿社

同所なり

大社御前社

同所なり

大社御前社... 同所なり... 大社御前社...

屋根御前社

同所なり

塵宮

同所なり

塵宮... 同所なり... 塵宮...

天社

同所なり

千手社

同所なり

千手社... 同所なり... 千手社...

稲荷社

同所なり

經塚社

同所なり

經塚社... 同所なり... 經塚社...

弥五郎殿社

同所なり

星宮

同所なり

星宮... 同所なり... 星宮...

天社

同所なり

橋守社

同所なり

橋守社... 同所なり... 橋守社...

天社

同所なり

愛宕社

同所なり

愛宕社... 同所なり... 愛宕社...

天社

同所なり

神宮寺

同所なり

神宮寺... 同所なり... 神宮寺...

天社

同所なり

鐘樓

同所なり

鐘樓... 同所なり... 鐘樓...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

天社

同所なり

彌五郎殿社

同所なり

彌五郎殿社... 同所なり... 彌五郎殿社...

例祭 小朝拜神饌

正月元三に

藤民祭

同日社家... 藤民祭... 同日社家...

七種御粥調進

日七

奉射

日十六日午刻... 奉射... 日十六日午刻...

御贄祭

日廿六

御戸開神事

日廿七日... 御戸開神事... 日廿七日...

春縣神事

日廿八

大般若轉讀

二月十五日... 大般若轉讀... 二月十五日...

神幸

五月五日

闘雞神事

三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

神幸

五月五日

闘雞神事

三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

神幸

五月五日

闘雞神事

三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

神幸

五月五日

闘雞神事

三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

神幸

五月五日

闘雞神事

三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

神幸

五月五日

闘雞神事

三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

神幸

五月五日

闘雞神事

三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

神幸

五月五日

闘雞神事

三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

神幸

五月五日

闘雞神事

三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

神幸

五月五日

闘雞神事

三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

神幸

五月五日

闘雞神事

三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

神幸

五月五日

闘雞神事

三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

神幸

五月五日

闘雞神事

三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

神幸

五月五日

闘雞神事

三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

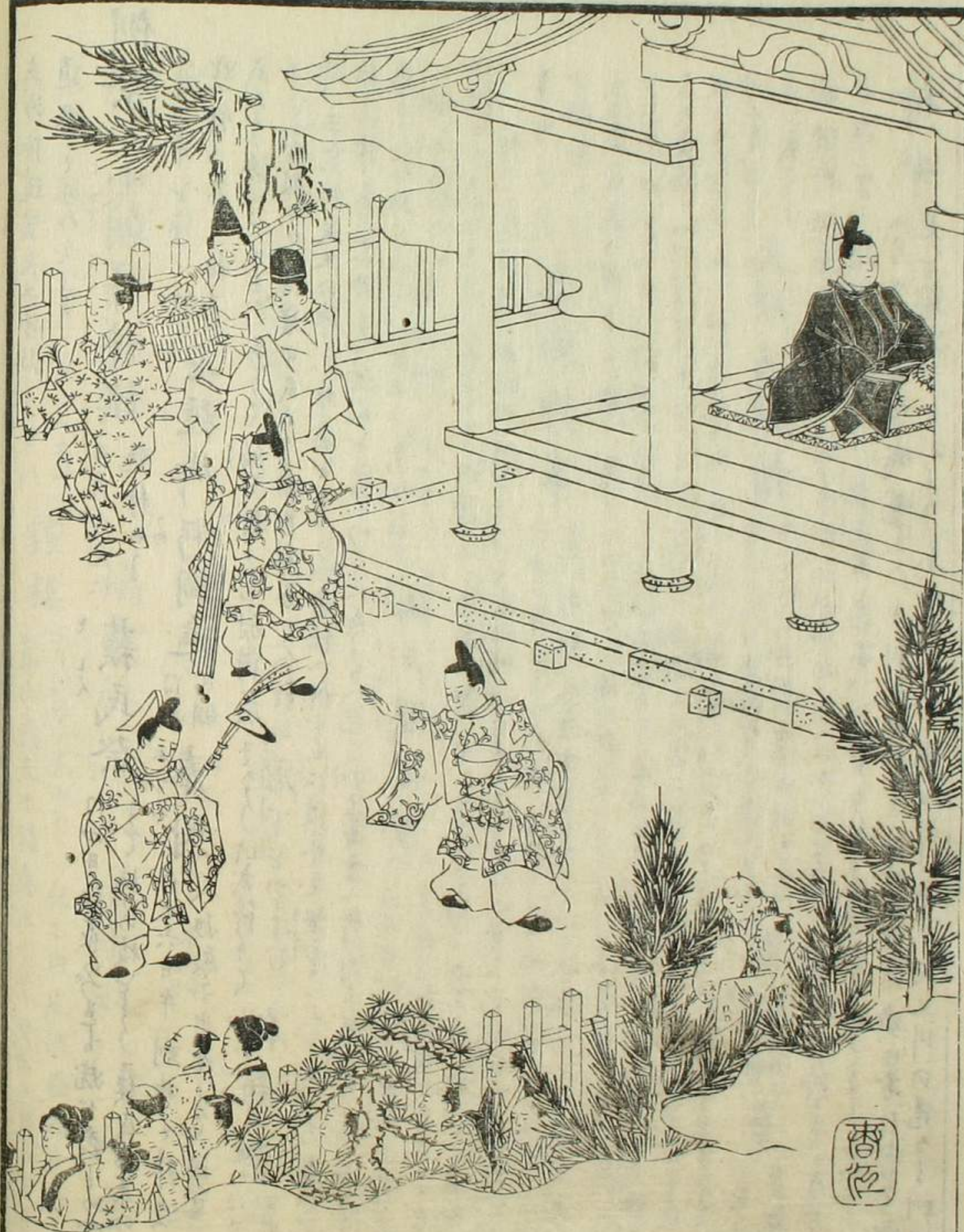
神幸

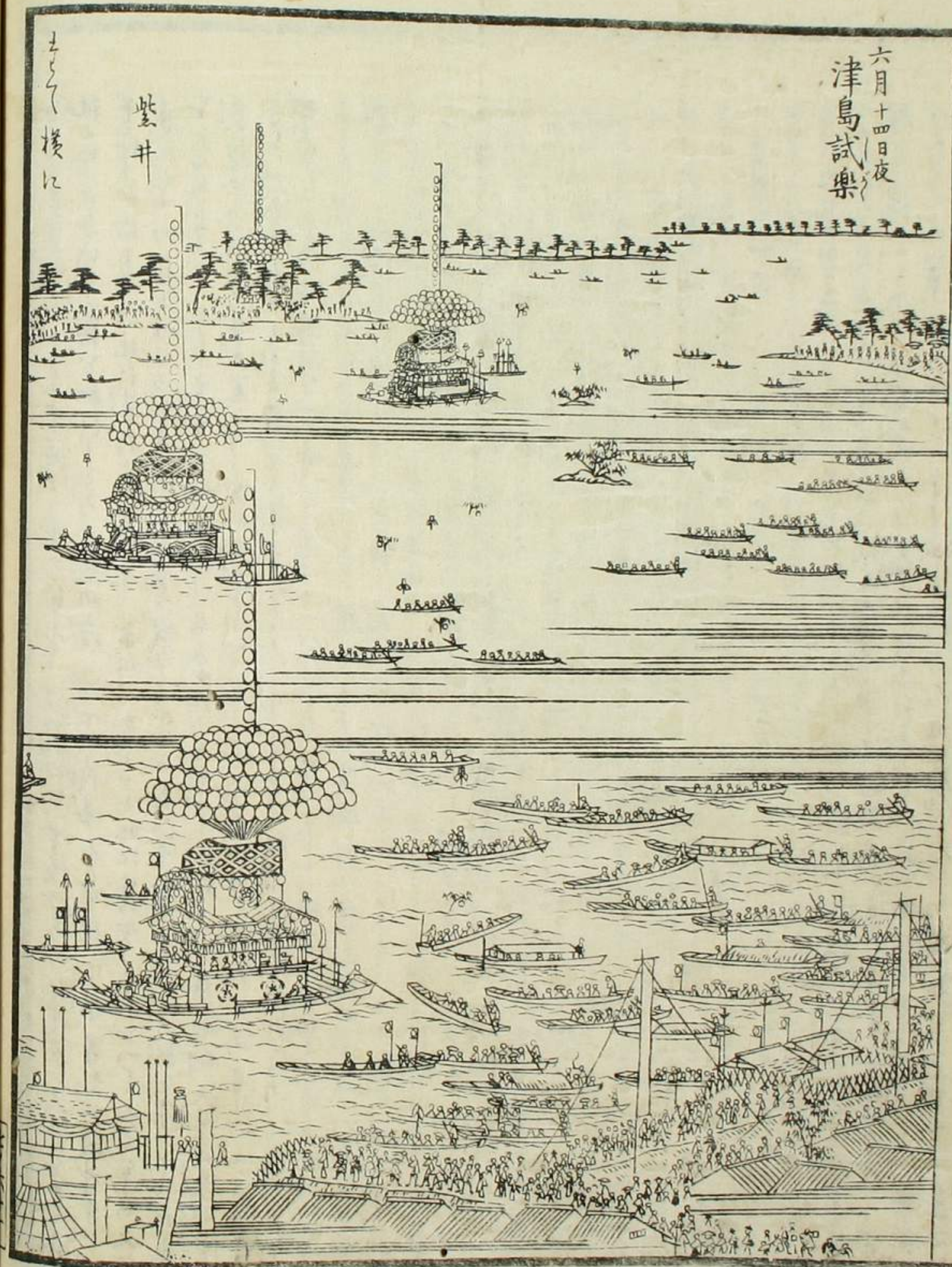
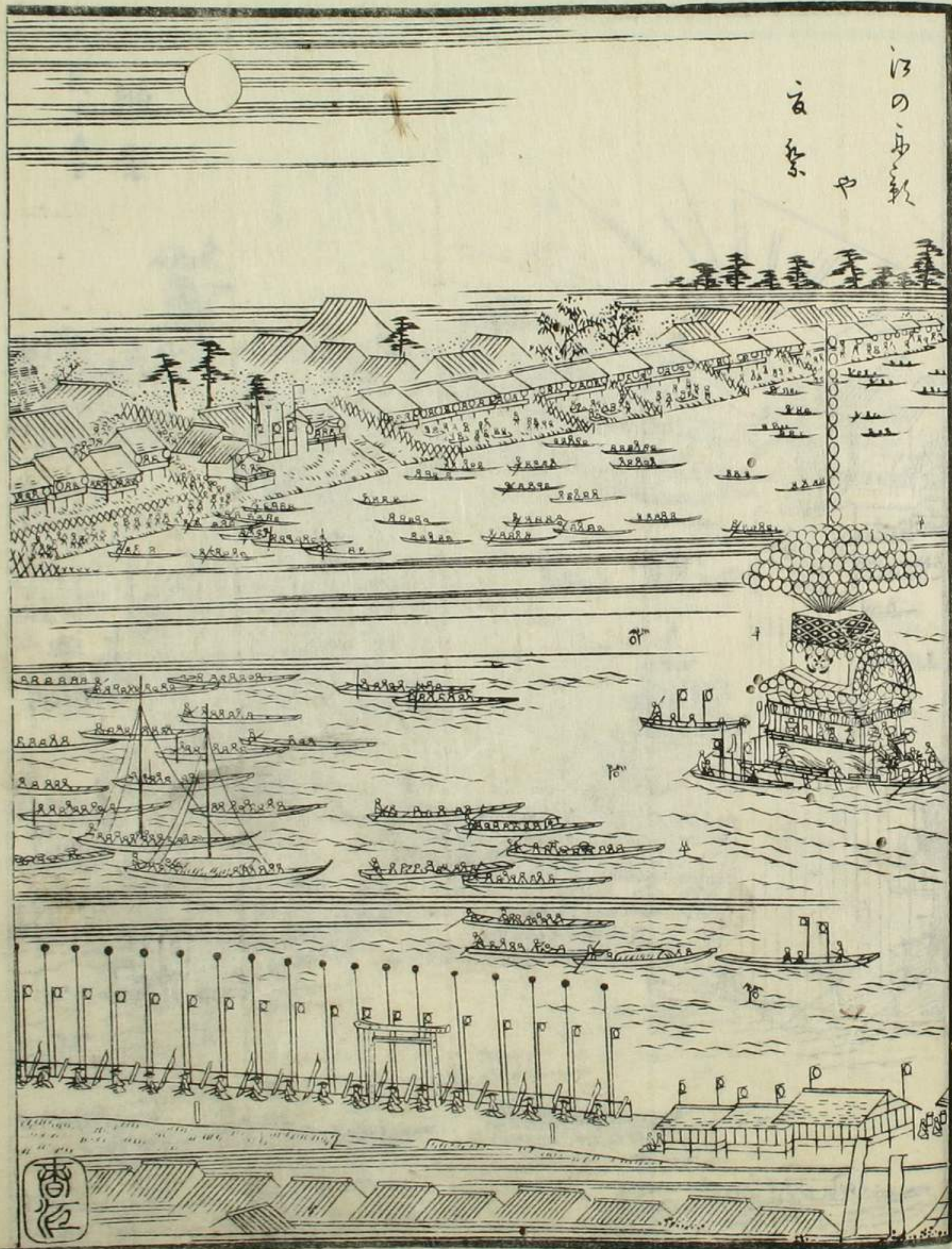
五月五日

闘雞神事

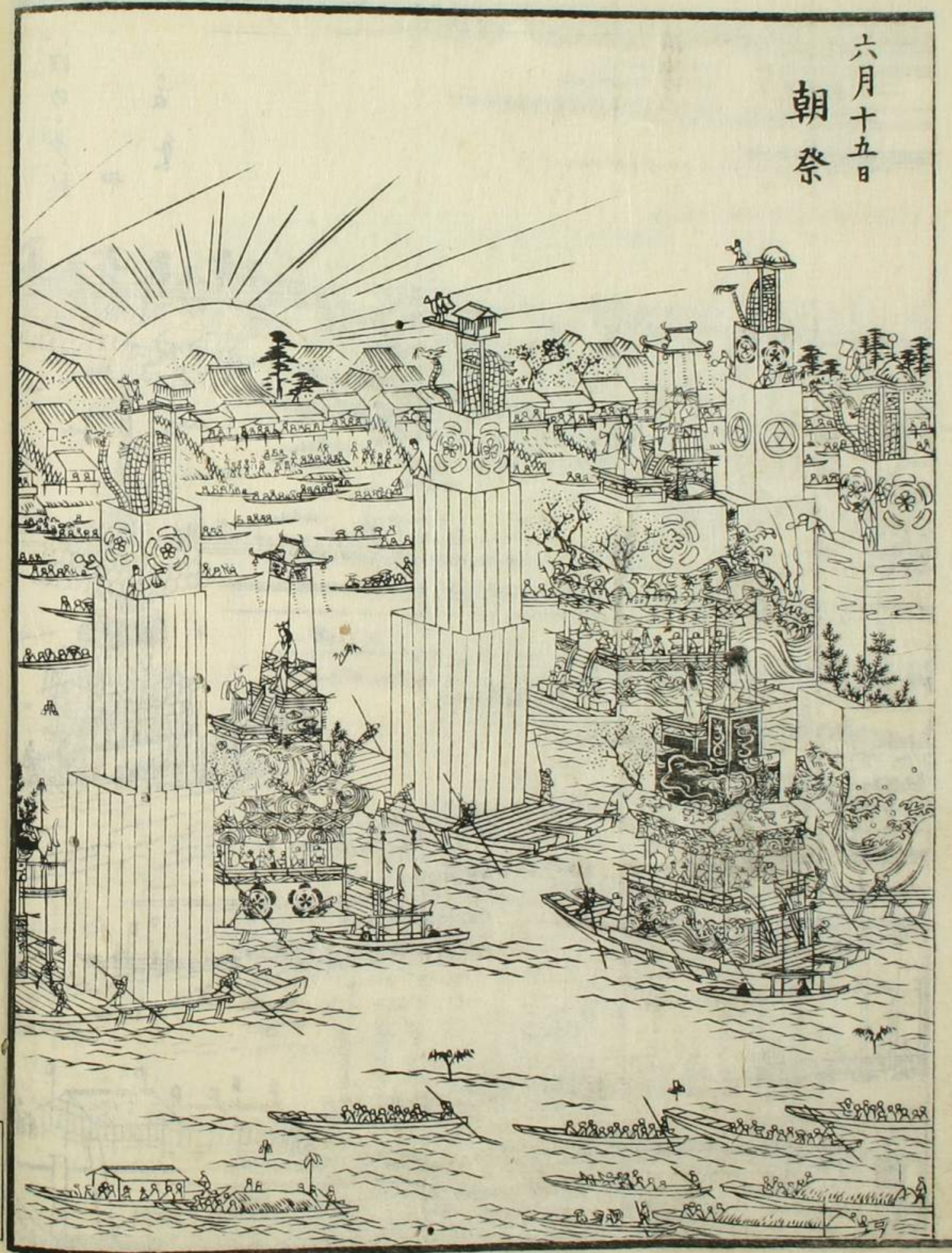
三月三日... 闘雞神事... 三月三日...

春の縣神事





六月十五日
朝祭



津島祭記
朝祭

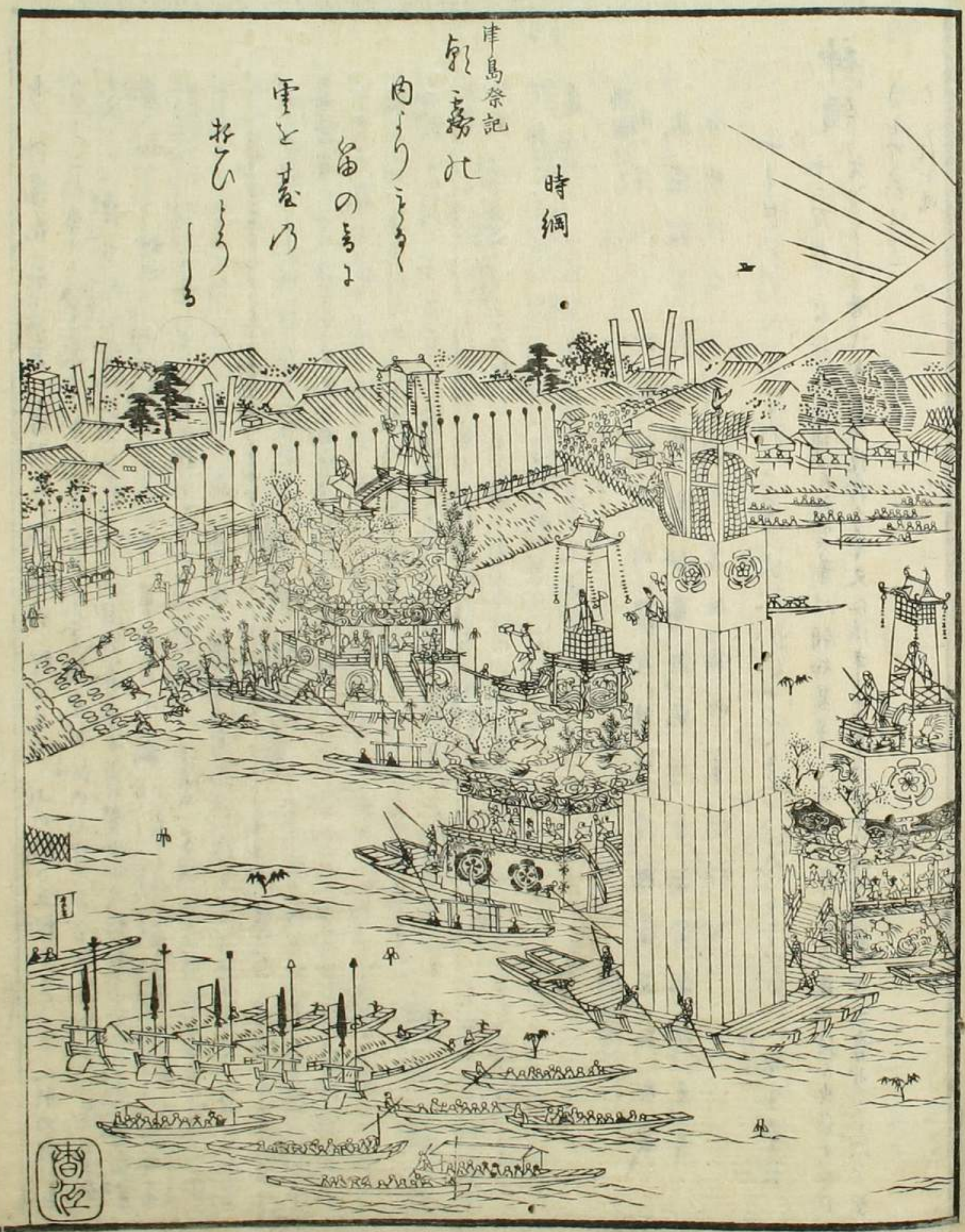
時綱

内より

留の

重と

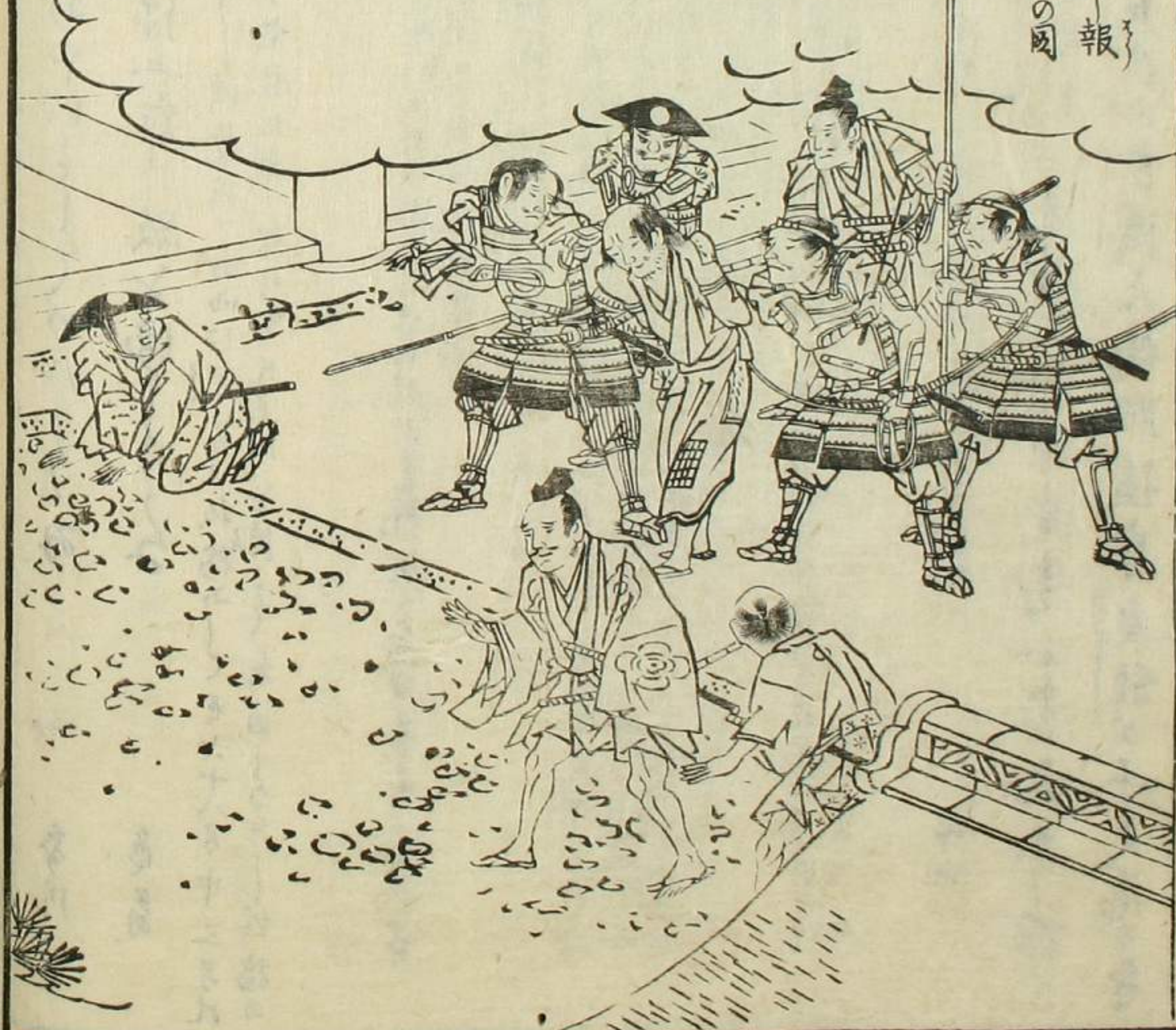
おひ



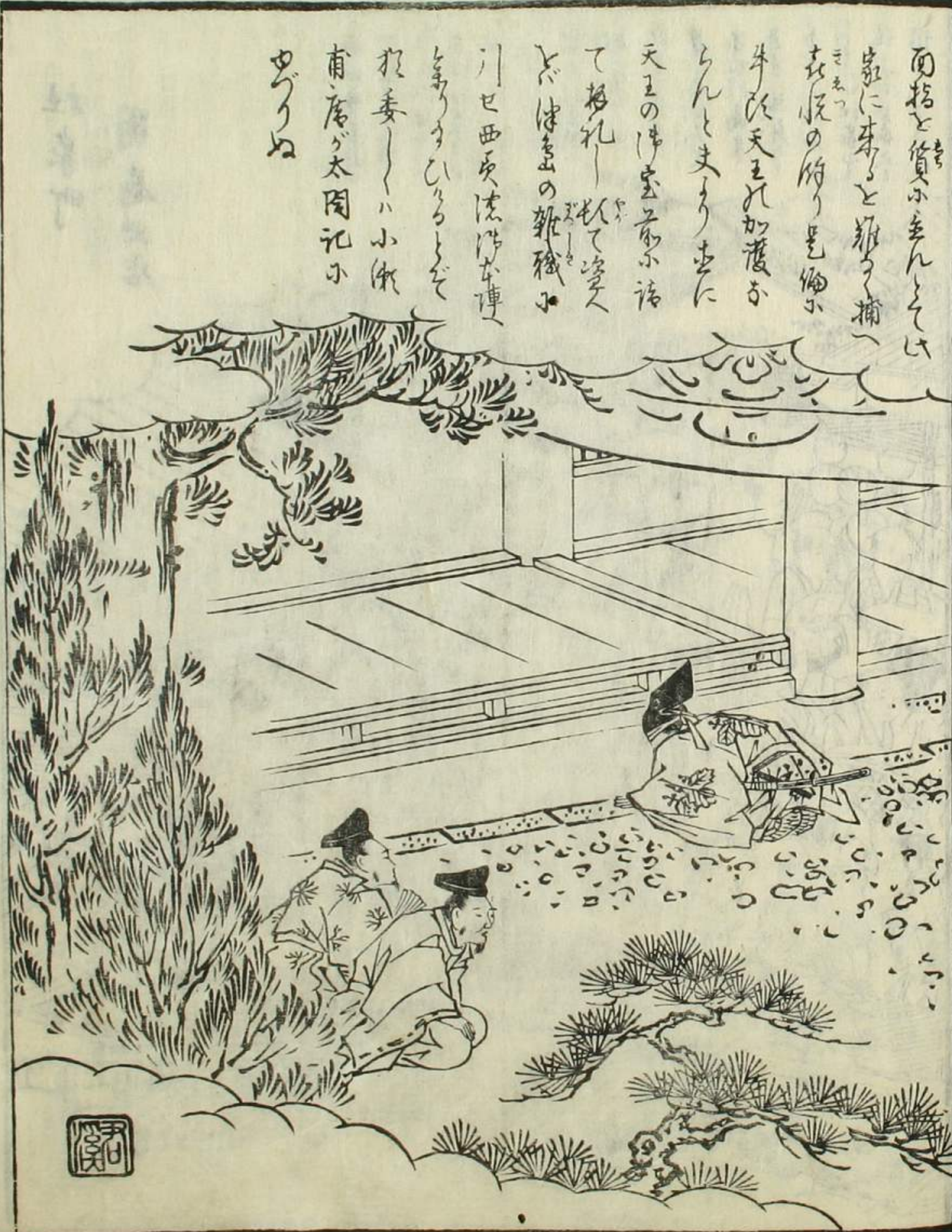
香

木下藤吉むしたのぶきち寛罪かんざいとのれ報うけ
 謝あやまりのり牛頭ぎゆうとう天王てんわうへ来詣きたよみの國

永祿六年の秋の末信長と
 西兵衛小助とんとて道す
 ぐらぐら番ばん候こう小陣こじんと取りま
 小こ夜よ福富平ふくとみへいちつ耐たえ
 合あ流りゅうの而な格かく珍ちん失しつ耳みみか
 誰たれ波なみはちりへへ行ゆき
 評ひょう議ぎの内うち若わか吉きちぬとまぬ
 斗たうりふんえいえいとバ秀しゆ吉きち
 大だいに怒いかりいふふしし人ひとと
 捕とらへへ寛かん証しやうととままん
 小こハハままととててししはははは
 一い弛ちりり堀ほり田でん原げんをを耐たえ
 云い真ま家けがが一いまま方かた三さんつつと
 叩たたくくふふ果は果はしてしてままの



而な指さとと賃ちんふふままんんとといいは
 家けにに来きるとと罪ざいをを捕とらへ
 去こ後ごのの竹たけはは是こゝ御ごの
 牛うし次じ天てん王わうれれ加か護ごお
 ららんととままりりままに
 天てん王わうのの侍しやう室むろをを耐たえ
 てて格かく礼れい一い枚まいでで受うけ
 ととははままのの雜ざ職しやくのの
 川かにに西せい兵べい衛ゑいはは本ほん博はく
 ととありりままひひららととて
 於お委ゐ一いハハ小こ御ご
 甫ふ唐たうがが太たい閤かく礼れいのの
 中ちゆうののゆ



印

て吉中より上中へ定後より吉中より供奉の人々

大橋隆經大夫定元 周本左近将監高家 山川氏於少輔重祐

恒川左京大夫信矩 堀田尾張守正重 平野之次正

業忠 服部伊賀守宗純 冷木右京亮重政 真中武部少輔道

資 光賀大膳亮為長 何村右衛門守秀信 此十一家と

吉野十一黨は官方の武士也 已上浪合記云々 此十一家と

鏡池山瑞泉寺 船戸小川浄土宗西山派 開基元年記洋々

天王宮 今字と瑞隆 小あつし 永正十四年中具日仙和尚令れ

地小移りより正二位大納言良王君尚所奴地増入り

いふ内應元年三月五日薨りて寺に葬り

彼君の謚号瑞泉寺殿と云ふにりて寺に葬り

三月五日天王の境内に社と建てて寺前大 本尊 史六阿弥陀座像 鎮守 八幡宮

本尊 史六阿弥陀座像 鎮守 八幡宮

靈寶

良王君影像古画一幅并良王君の位牌 瑞泉寺殿

紫雲山 善提院 西福寺

口所にあり時宗近にふ番場宿蓮華寺未のり

塔頭

十王堂 先年焼

本尊 阿弥陀 鎮守 神明

津島山 妙延寺

今市場小川日蓮宗甲州身延山久末より末宗より

本尊

法華三寶すきき清正の像と女坐すきき

五所中とつる者の家にて漢書に記すに或年六月月中旬の幸ありて盗

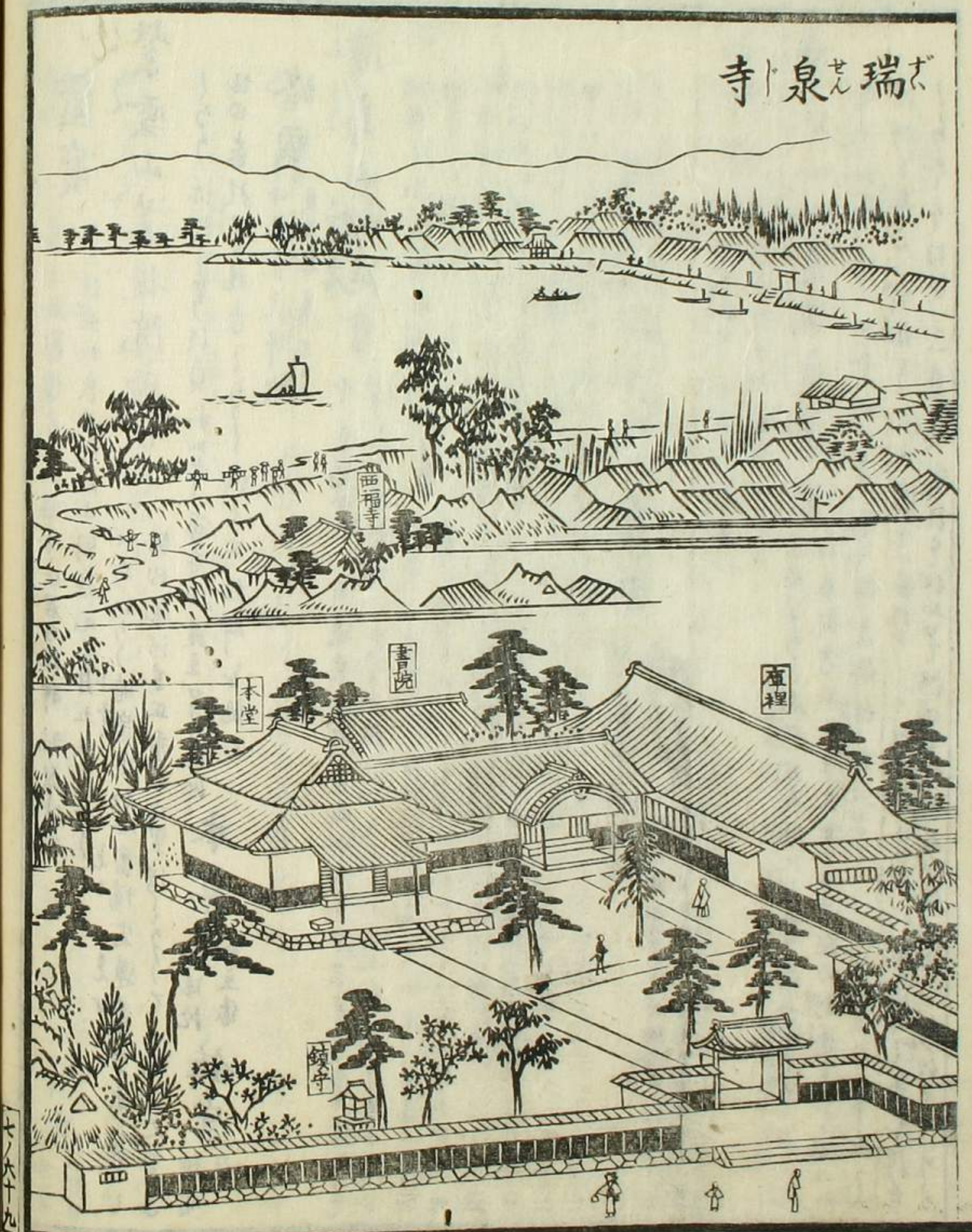
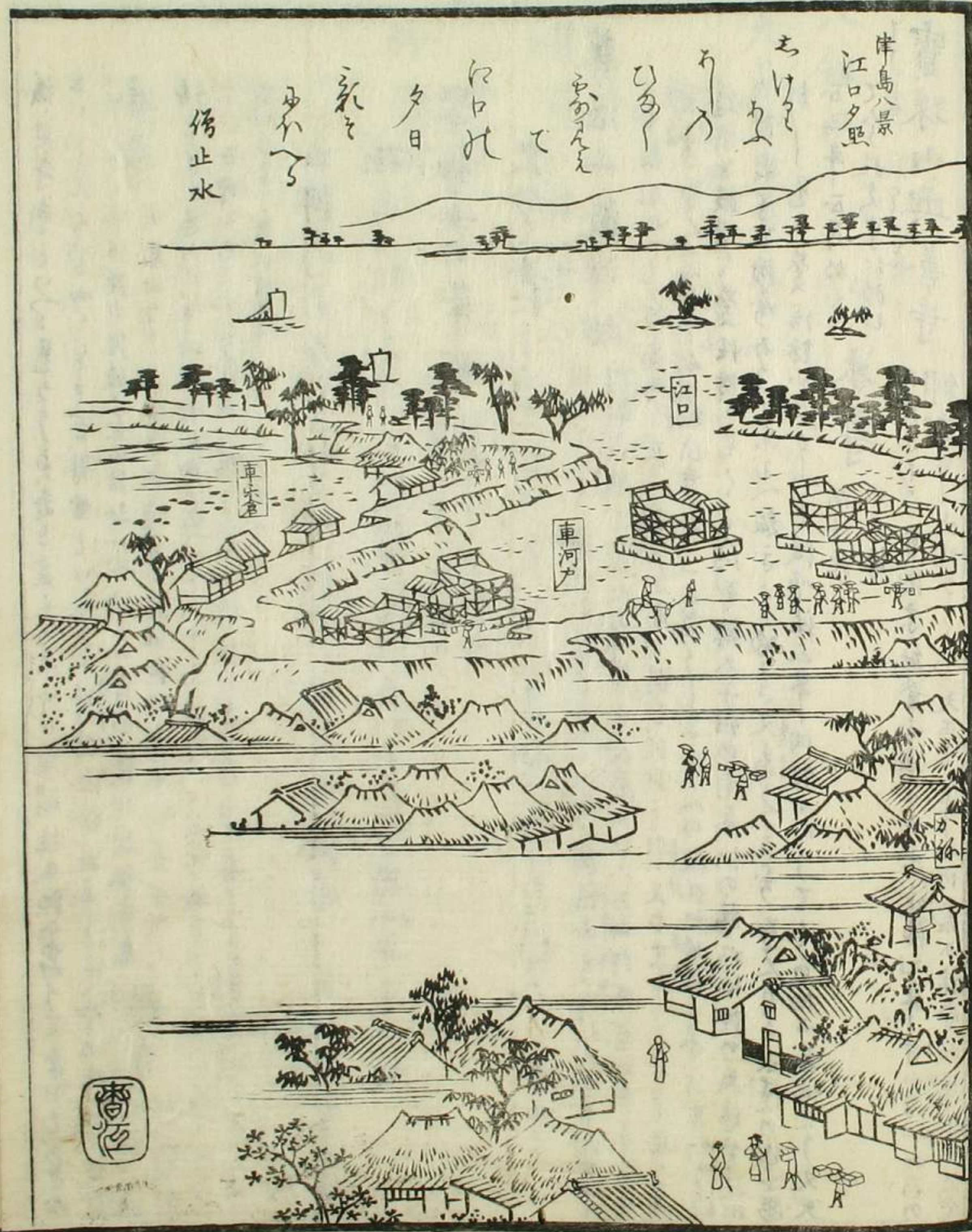
土御前社

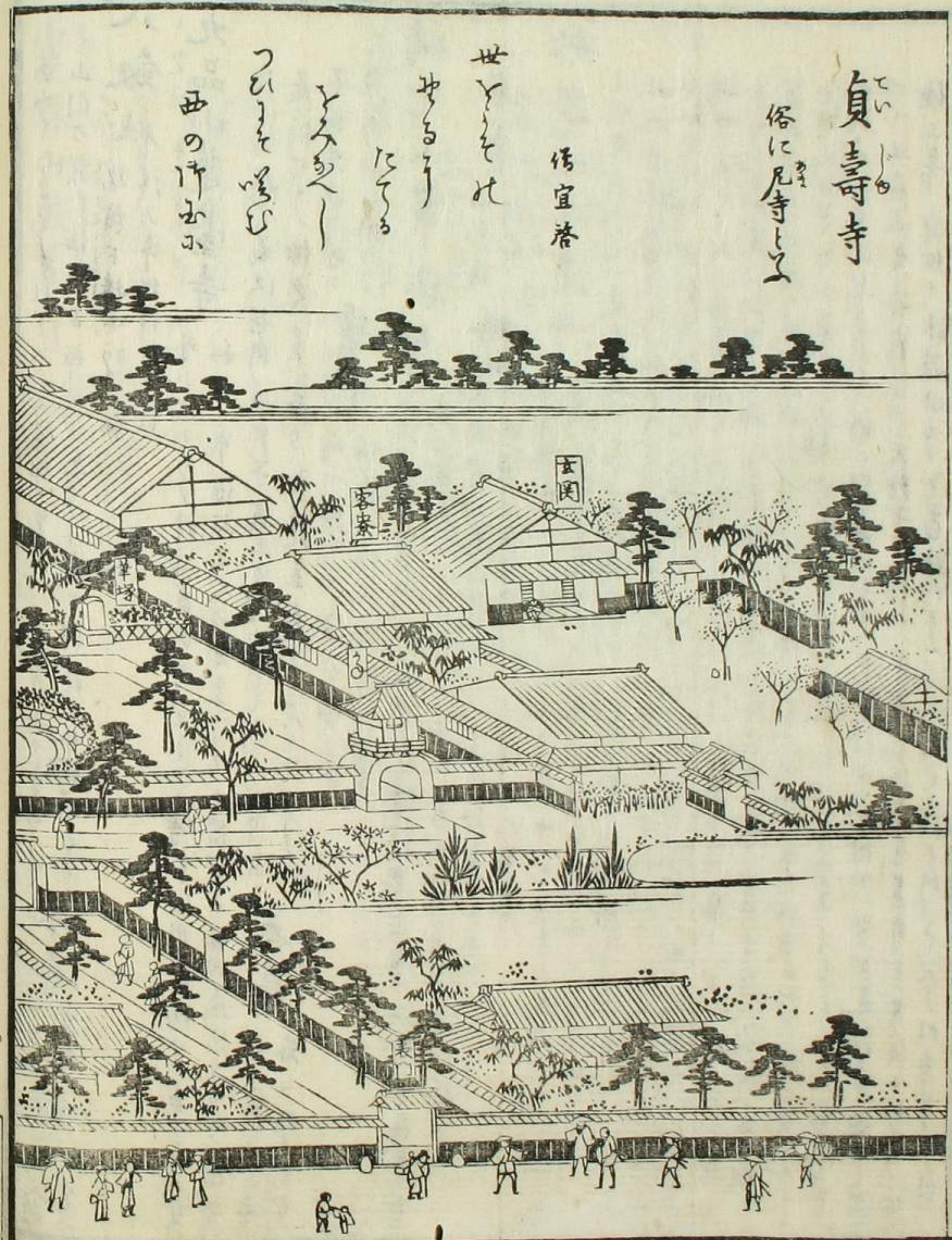
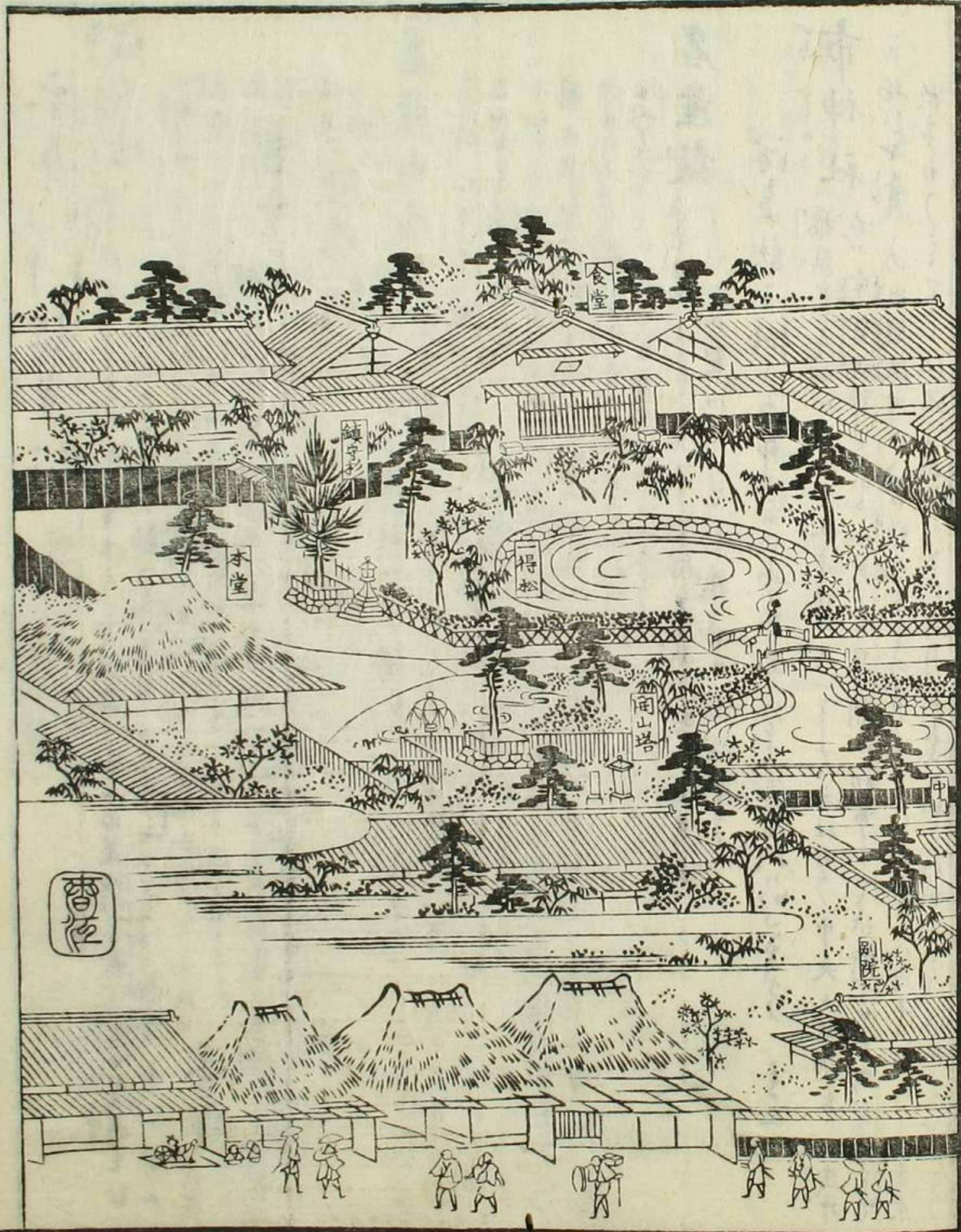
口所にあり天王御祖神とあり

寶池山 休蓮院 貞壽寺

口所あり尾張地佐佐木氏に尼寺と云ふ浄土律中一色

関通和尚の行業記云尾張尾張郡律氏父子に師に依りて律中一色





負壽寺
俗に尼寺と云

信宜塔

世々これ

ゆゑに

にても

とくまゝ

ついでに

西のけふ

香

龜伯山大龍寺

米の産にあり、淨土宗西山派、京都先明寺禪林にあり

征夷大將軍正二位中

納言尹良親王の御子永享年中、以子良王君の創建の事

所りて、則彼君に淨法号大龍寺殿とす、寺号とせり

八年六月十五日十一黨の者社とせり、天王の、其後天文年中大叢

和尚中興せり、信濃宮傳云、應永三十一年八月官ハ三河正助へ移り、

小次郎伊奈、四弟、八十條、等二百餘、侍文、並會の山、麓大、

浄子良王と云ふ、或は、入世、火、放、て、自、害、あり、し、

多、り、の、聖、光、寺、の、傍、に、死、骸、と、稱、せ、り、葬、め、り、

靈寶、尹良親王画像一幅并位牌、大龍寺殿、征夷大將軍正二位中納言尹良親

王、神主、應永三十一甲辰八月十五日、浪合記古寫一卷、信濃官傳古

寫一卷、後田佐忠、塔頭、室樹院、

十二城址

米、産、大、龍、寺、の、西、に、あり、誰、人、の、造、り、也、今、詳、し、は、也、の、字、に、

姥森

大宮の北にあり、自然石と稱して、姥社と稱し、

馬津古驛

延喜兵部式に尾張國驛馬馬津、新溝西村各

十足傳馬海部愛知郡各五足とあり、は古驛今廢して其所定り

は、真野時綱が門真私記小馬津に、森、り、む、り、居、森、は、是、之、

馬津の馬も、今、松川に、里、議、り、り、り、日本後紀に、弘仁三年五月

乙丑伊勢国言傳馬之設、唯送新任之司、自外無所乘用、今、自、素、名、郡、

榎、撫、驛、達、尾、張、國、既、是、水、路、而、徒、置、傳、馬、久、成、民、勞、伏、請、一、從、停、止、永、

息、煩、勞、許、之、と、是、を、赤、染、清、の、集、尾、法、に、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

ひ、り、

馬津、渡、船、以、所、部、小、船、并、津、邊、人、令、渡、煩、事、只、津、邊、可、置、渡、船、等、也、海、

道、第、一、之、難、處、官、使、上、下、留、連、處、也、云、云、と、是、を、信、濃、官、傳、古、寫、一、卷、

道、第、一、之、難、處、官、使、上、下、留、連、處、也、云、云、と、是、を、信、濃、官、傳、古、寫、一、卷、

道、第、一、之、難、處、官、使、上、下、留、連、處、也、云、云、と、是、を、信、濃、官、傳、古、寫、一、卷、

按るに津島北西北より松川を依る川の増とせり松川の漢を其地と古沢の
流とてつやまらるる松川と時流が流より松川に配り後考を後川
小船漕運の流りんじよに山ふりし今吹来りり 中尾我指

海西郡

當郡ハ南北長く東西狭くして東ハ海東郡小隣北ハ中濱郡
小接西ハ木曾川と隔て濃州の海西郡小接南ハ海面
伊勢に連きり天正年中秀吉公一郡とてつふからりて川の西
ろろとみ流の海西郡と東と南郡と定られしが古澤新田
遊々開敷して今ハ大小凡百村に及り南郡多クハ新田
地とて豪家の農民甚多ク村小字侯の地よりさぬ神
社佛閣名所古蹟の萃るるまきまきもの稀なり

普陀山圓通寺

上東川村小あり曹洞宗落伏村一心寺末
寛永十一年僧玄昌の創建なり 本尊 十一面観音
甚多ク傳へし像も赤見村より出たり西ハ木曾川の西にあり
毎夜土中の波のせりて民に恐れをばりて日と夜とをばりて

のたれりすりり鑊を破りけし果しく内より古澤像とありとてつふ
凡工の作らるるも是れはけりんじよに流りて山ふりし今吹来りり
をいふと別なり

宇太志神社

特多須村小あり今白旗大の神と稱し延喜神名式小宇多志
神社本國帳に後三位宇太志天神又元龜二年小書官の公府家
本に正四位上宇多須天神とあり民部省國帳小國津宇多志明神神田三十八東
有餘 天武天皇元年壬申十二月始建宮殿尔来及寛治二年戊辰加再復給と
る

例祭 祠官

八月十五日 杉原氏

石塚

日村小あり田畠の中に巨石数多あり接り上古表露に穴居り
わらわら石塚とて墳墓塚墓の面新いんじよ

靈松山西音寺

濃州村にあり浄土宗永徳堂光有も末永祿四年横井
時朝の建立し時朝法名西音寺義兵宗末よりゆゆ小寺
号し 本尊 富士権現社神木の灵松ハ其文好にあり四方蓮をとり
りり 鎮守 白昔谷よりて枝と稱ひけしバ伐りり血流松人向
せりり 松山の号ハ

給父渡

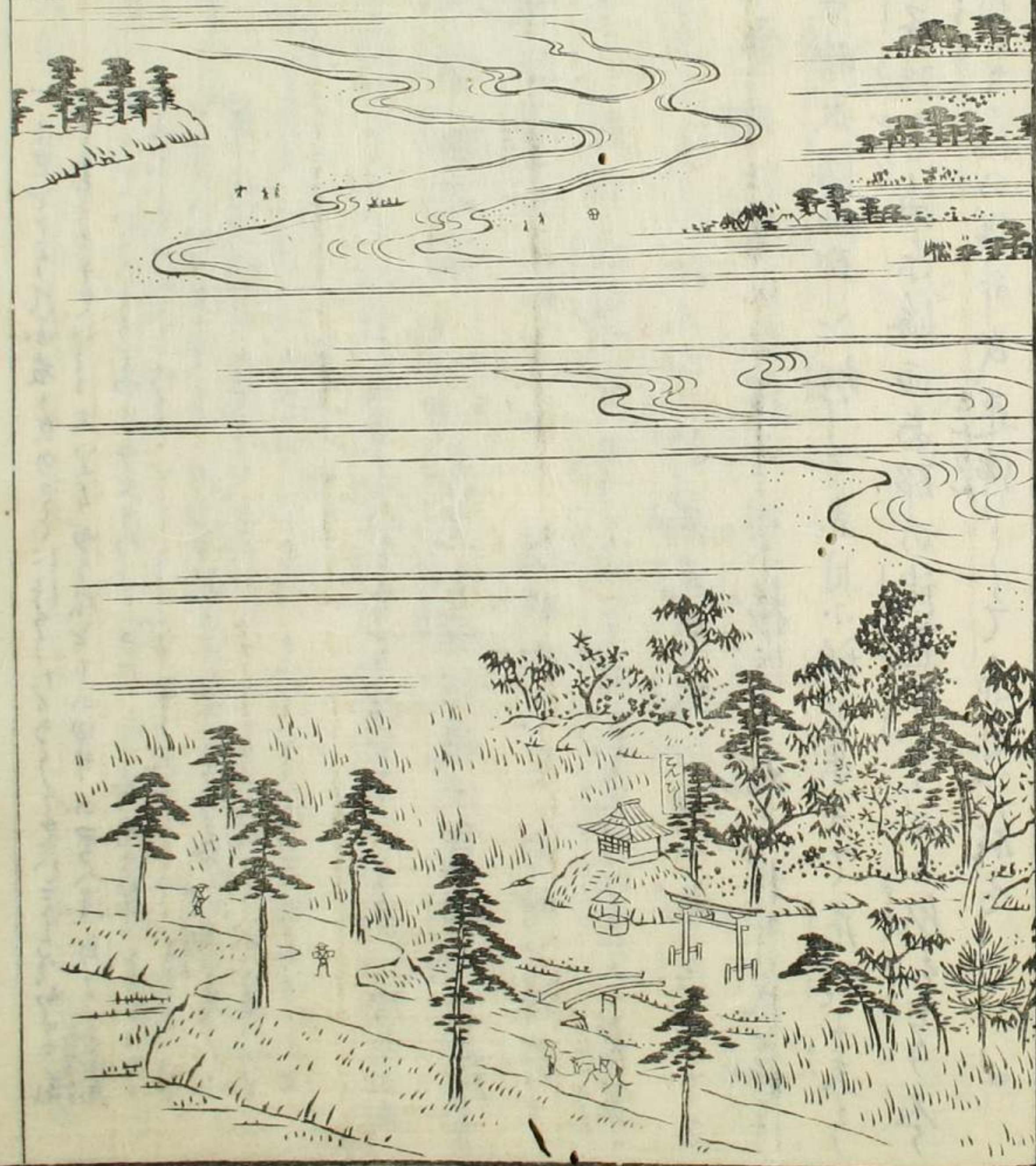
給父村小あり木曾川の下流りて川中三町余に
西ハ則濃州秋に村あり給に秋の流りり

百合根

右ノ濃州村より出るの名産し於て苗玉の産上りしとてつふ
苗村とて一品とて形基大きく雪白りて甘き蜜れ
おと多し東阿小運送りて播種家少とてとてつふ
世に玉食とてつふ

月底

宇太志神社



夕月のあけゆく

美茶

騏六

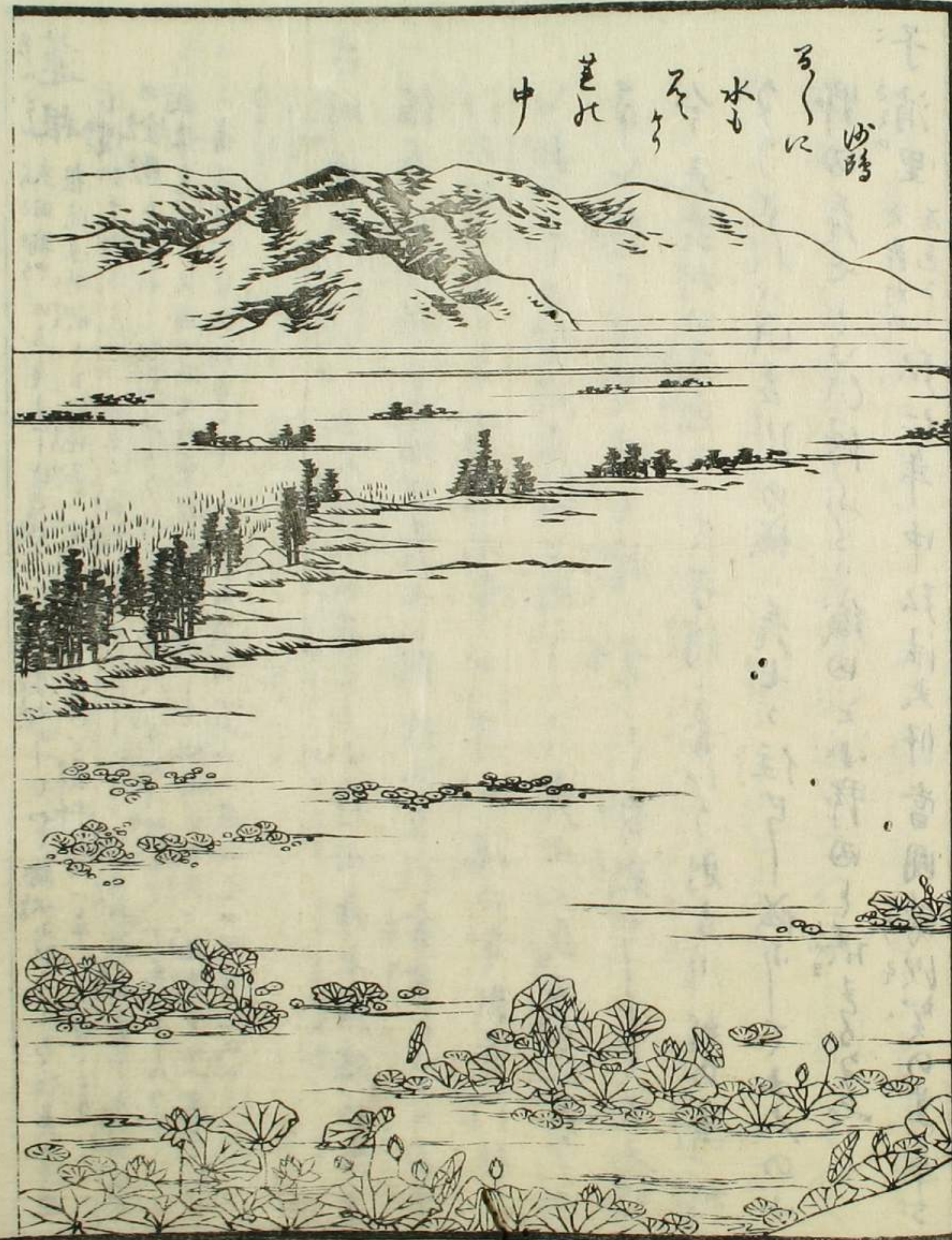
試音

青嵐
砂と一毛の

穂麦うゑ

水滸峰佐野の後のれ
あふにまゐるより菴堂
小取とて下してのれ
とらふのまは竿とてさ
して着て休と横より
わく本首の大河小
さうのわ。





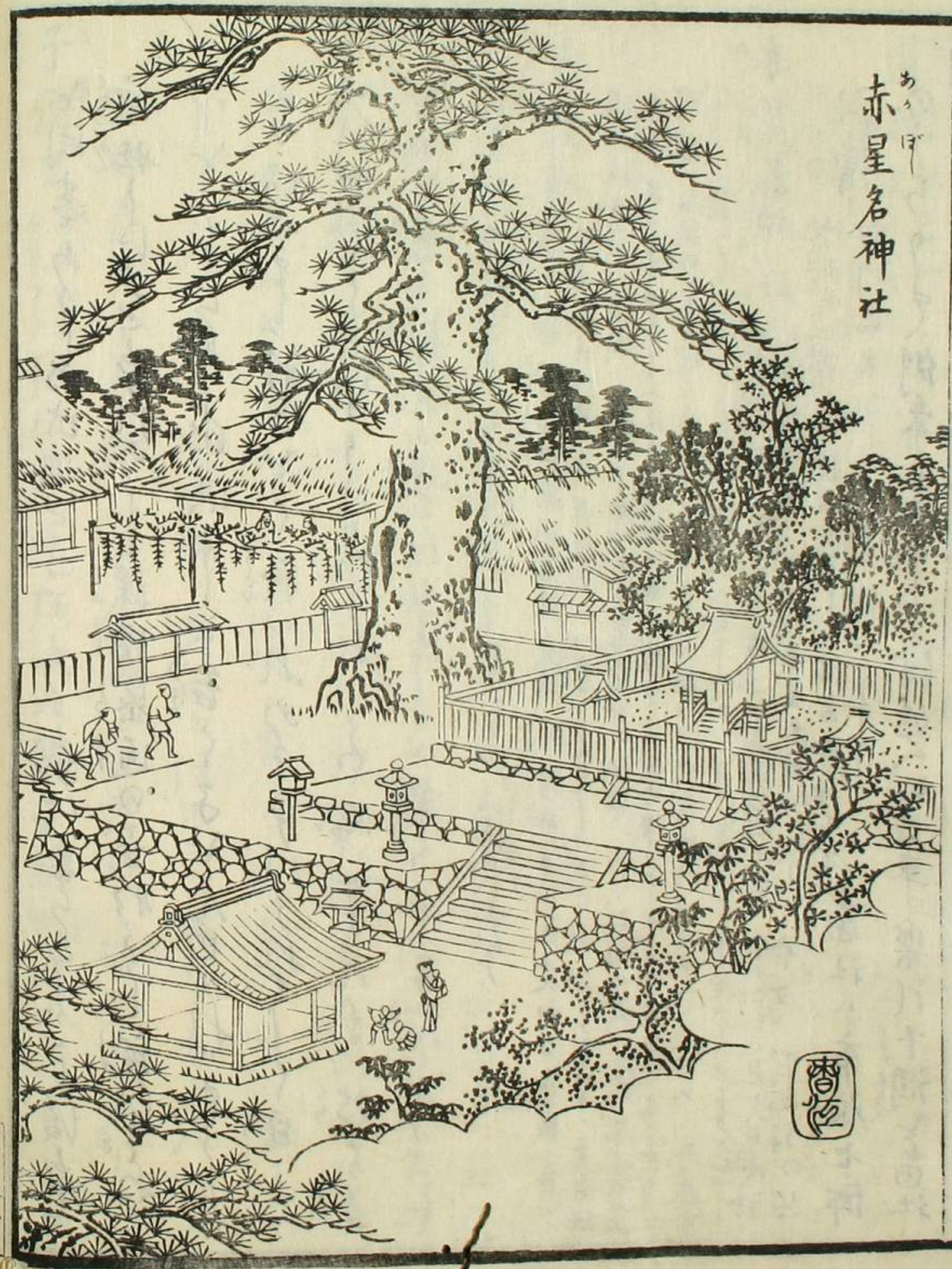
山崎
 水子
 夏
 中



立
 田
 荷沼の
 夏景

信南系
 山崎
 水子
 夏
 中

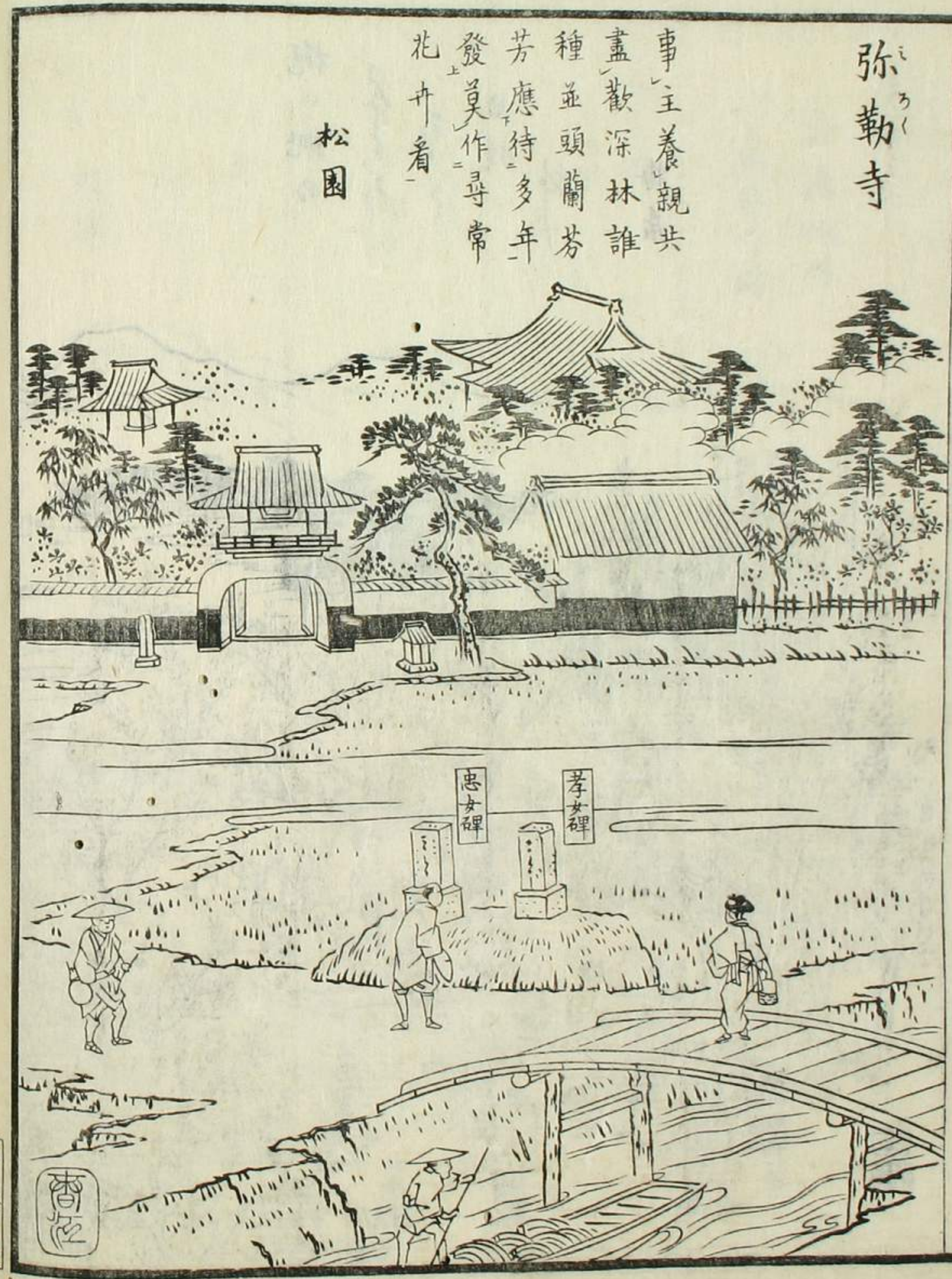
信南系



彌勒寺

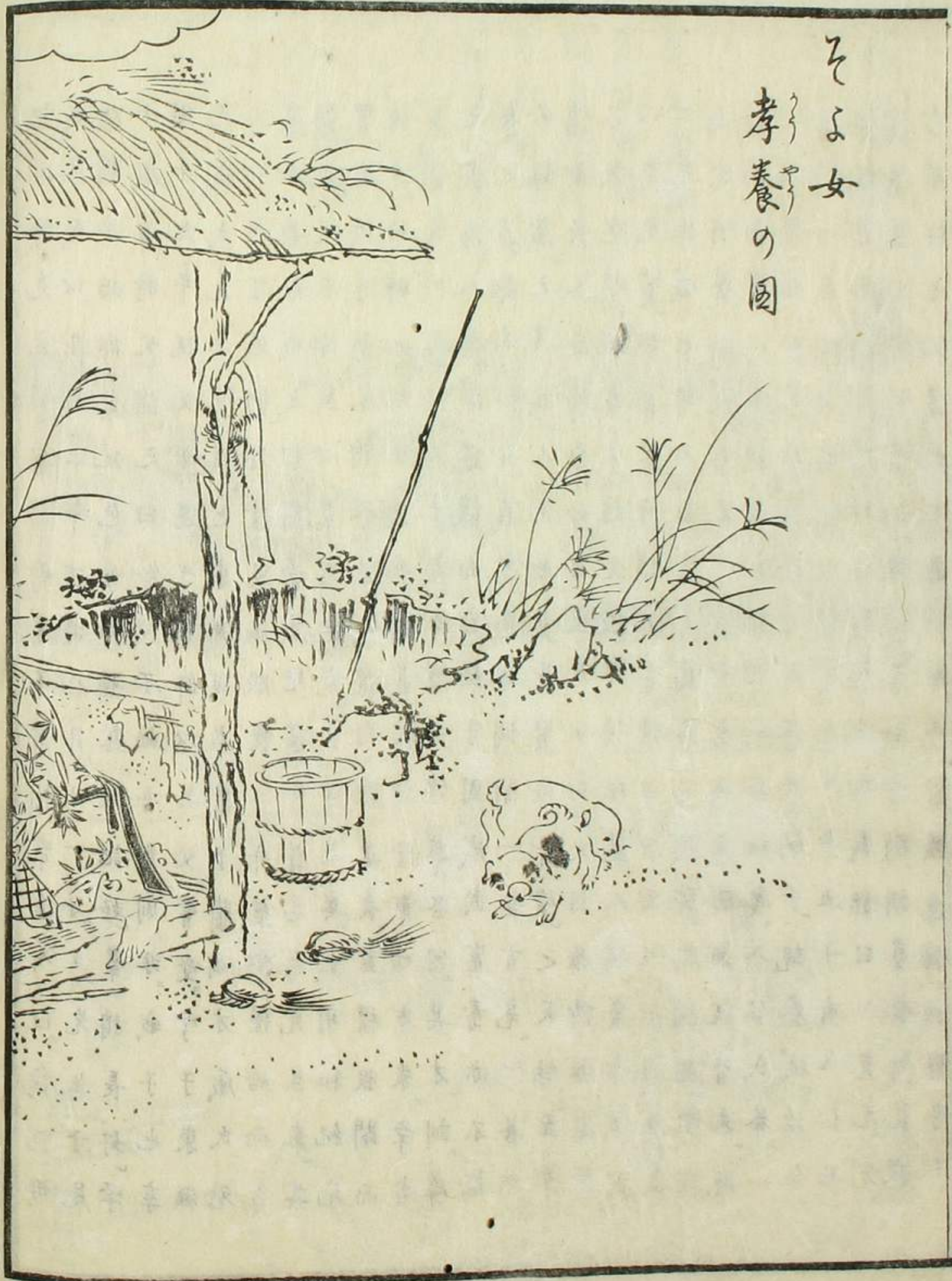
事王養親共
盡歡深林誰
種並頭蘭芬
芳應待多年
發莫作尋常
花卉看

松園



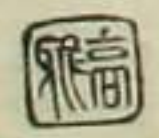
記其際先生姓宮諱奇字子常稱進父曰舜弼母
長尾氏以享保二年丁酉八月廿一日生好學
張國海西郡鳥地邑幼而聰慧強記起羣稍長
十歲善詩父謂之曰勉旃不繼吾業則非我子也
保十歲善詩父謂之曰勉旃不繼吾業則非我子也
元藏氏先生外亦事之東涯沒卒業于蘭嶼才藏
文四亦甚母戒之曰窮當益聖遺命莫忘也明紀
誨亦甚母戒之曰窮當益聖遺命莫忘也明紀元
買宅於此近衛巷將入居俄遭內難居重四方未
徒方此時也先生聲譽藉甚德望隆重因其才學
晨昏盈門其恭謹退讓而志純守固成武富亦不
之其為人恭謹退讓而志純守固成武富亦不能
奪之錄事雖小非義不為偶聞一善言見一善行
必錄之錄事雖小非義不為偶聞一善言見一善行
傷不取逐喪時好善書學趙如事少長賢愚皆禮
以不為至寶兼善書學趙如事少長賢愚皆禮
工先為感寶善書學趙如事少長賢愚皆禮
尚友所著詩文誓不復作矣園有竹因號筠園扁曰
稿而易箒門人親友松卷又曰親初娶入谷氏命
男不育繼室飛森氏產一女而無嗣子親治命
養門人名翺者氏業一鳴先命銘曰有八仁而
無壽孝而無嗣者氏業一鳴先命銘曰有八仁而
業儀表而無嗣者氏業一鳴先命銘曰有八仁而
言居仁之宅爵天之尊回耶倏忽歸根德音不

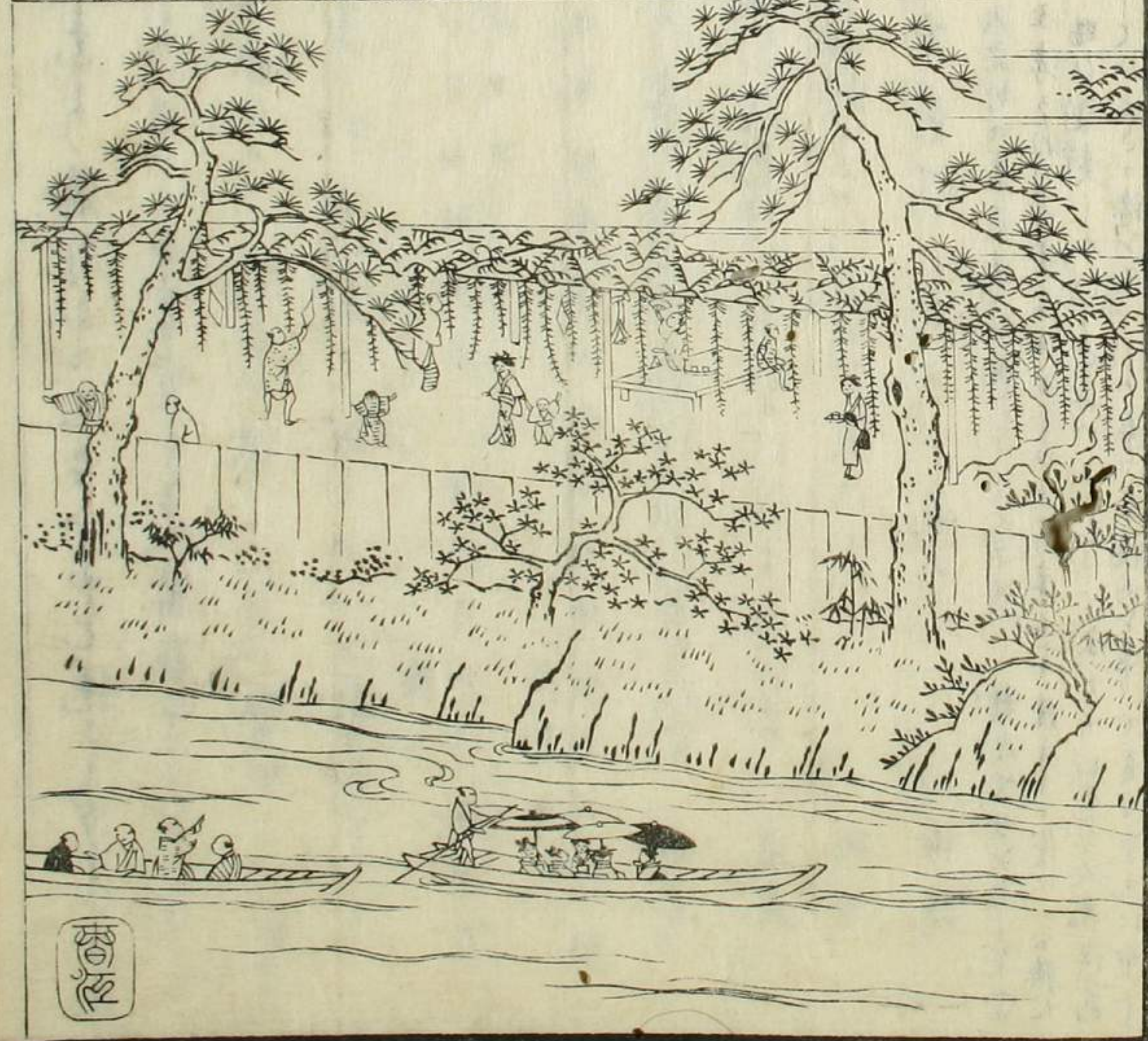
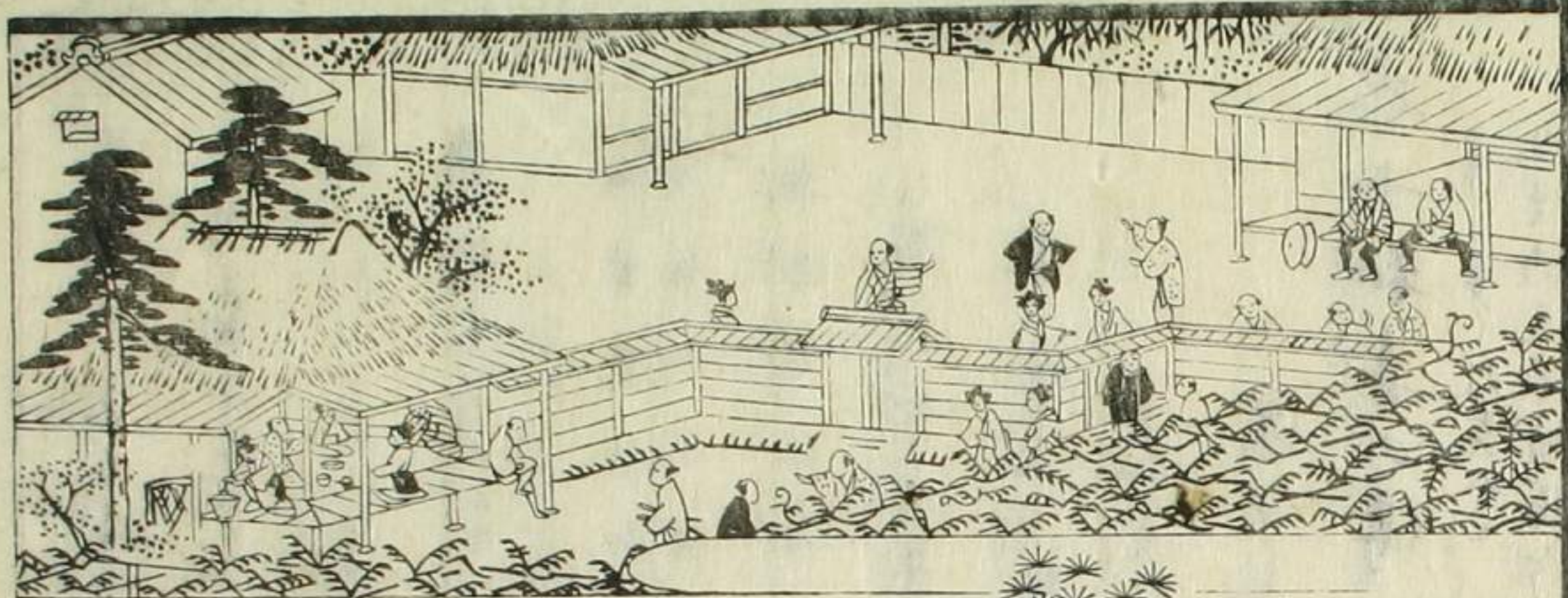
その女
孝養の図



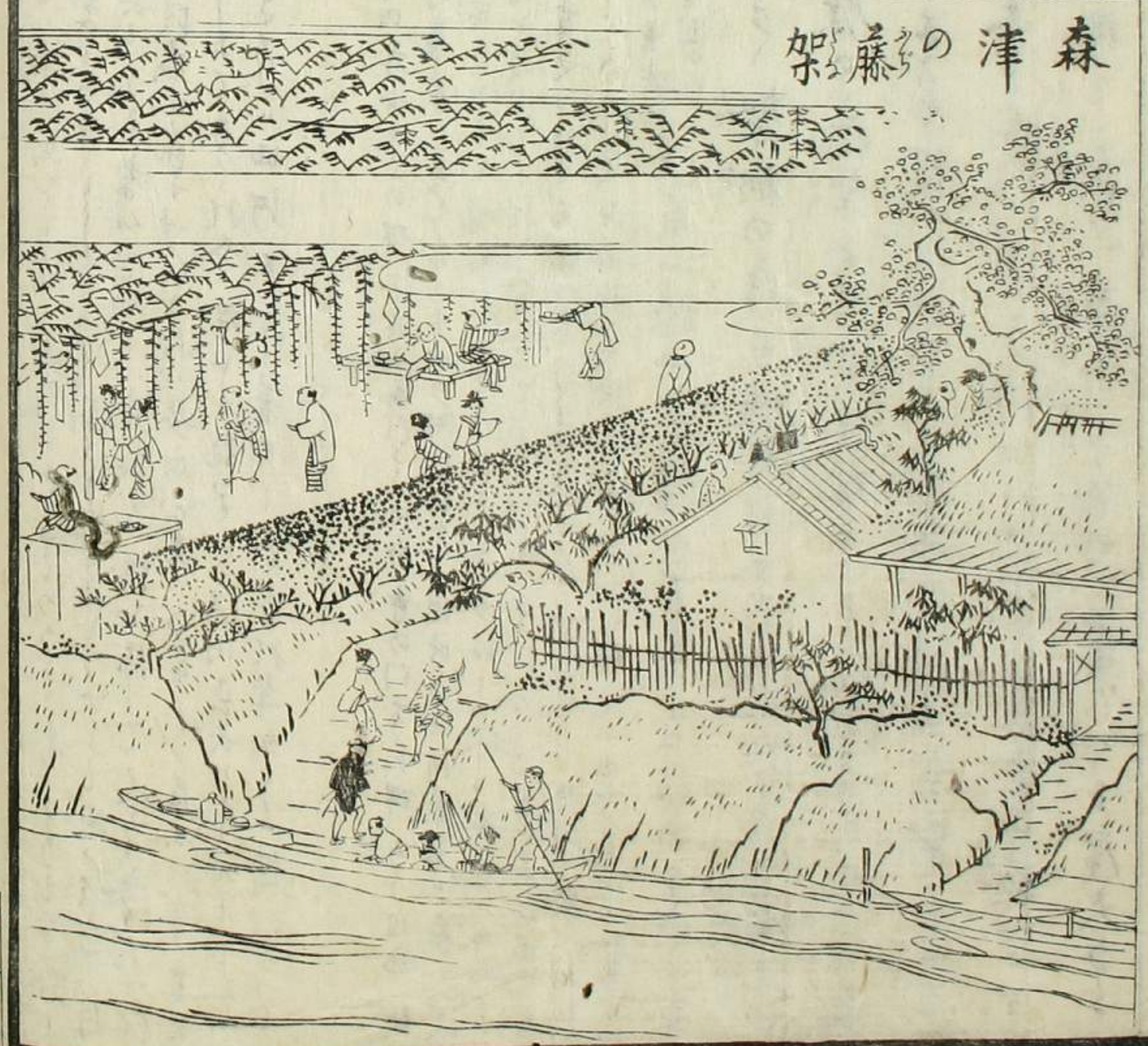
子孫の一人にやういふおぢ
わねと母と旅からまのすれ
うらぐまに妙きまのまの
親の孝とけいふまのけいふ
よとまうておぢい
けいふ
まのけいふ
けいふ
けいふ

今泉為村卿





西



架麻の津森

七八十六

友架い 皇國の素より海外にも又古今少を絶くゆがふ壯觀
うりたふなきとより日びふ来賞も人衆百千とよりゆり
初びふふけ家水ふそくは舟小使りふひは皆州より船を
来せも人た多し程回小籠く万分の一と忠像とへ

緹紫蔓藤醫日架 緹横百步一板花有 此奇觀春夏
際無人 不訪武田家 服部赤城

藤架萬條 垂春風 綠紫絲 此是天機 錦應從 銀漢移

堀川や日立入りあかばやし 赤波の里け友の記 昭豊
年ぬらう友のいろ色深く 夕日や友の記 道直
んげくせぬうちに夕日や友の記 梅間

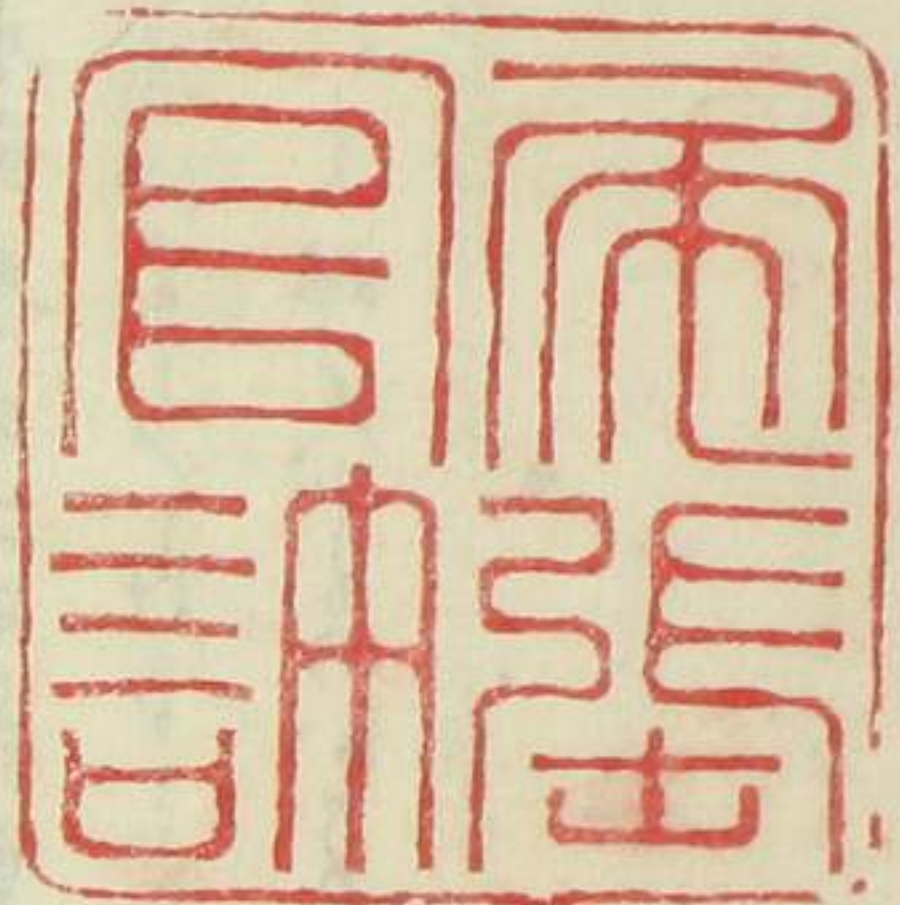
友くやむれとる 一景 沙路

孝女和喜の傳

大室村の農民甚三が娘なり 其人小使く精忠又母と申す
至孝なり 其苦名四方に傳ふ 其苦きく後に 公聴に
先中内後東浦翁とてひる 其像とあり 自ら其遺訓と遺りて 夏目重元に命じ

七八十七

主圖上に華せり多く人小福らとて 其美名とを現にあら
ありんがためうらも多き 其貴河にあら びり 天長六年六月
尾張國の孝女吉弥 侯部長子に位階を進せり 類聚國史に
のせり 近世海東郡八ヶ谷村 赤鳥ヶ地村 刺浦村の忠女
孝女及び忠智那 美野村の孝婦 知多郡古見村の忠女 川
小部 忠孝とて 稱せり 其の奉てかたき 由公の人
お婦人に忠孝多く 男子に曾我と備へる 素盞烏尊
日本武尊の二子 武勇の魁首 其妃 稻田姫 官酢姫の 女 貞操の
本原に しくけり 尚 出津 津 勢田に ちづり 移入と かくと
ぐれ 婦人 どもの ありき しく しく しく しく しく しく しく しく



天保十二年辛丑十一月
同十五年甲辰二月

脫稿
發兌

春江小田切忠近圖畫
文園岡田啓
梅居野口道直
瑞齋加藤昭豐備書

尾張書肆

全

名古屋本町九丁目

菱屋久兵衛
傳馬町五丁目
菱屋久八郎
合梓

發行書肆

名古屋本町壹丁目
同 本町三丁目
同 本町七丁目
同 本町十丁目
同 小牧町
京都御幸町御池上
同 寺町松原上
大坂心齋橋北久太郎町
同 順慶町
江戸芝神明前
同 日本橋通壹丁目

風月堂孫助
菱屋藤兵衛
永樂屋東四郎
松屋善兵衛
美濃屋伊六
菱屋孫兵衛
菱屋治兵衛
河内屋喜兵衛
柏原屋清右衛門
岡田屋嘉七
須原屋茂兵衛

